

2014 年度 報告書

海外短期研修

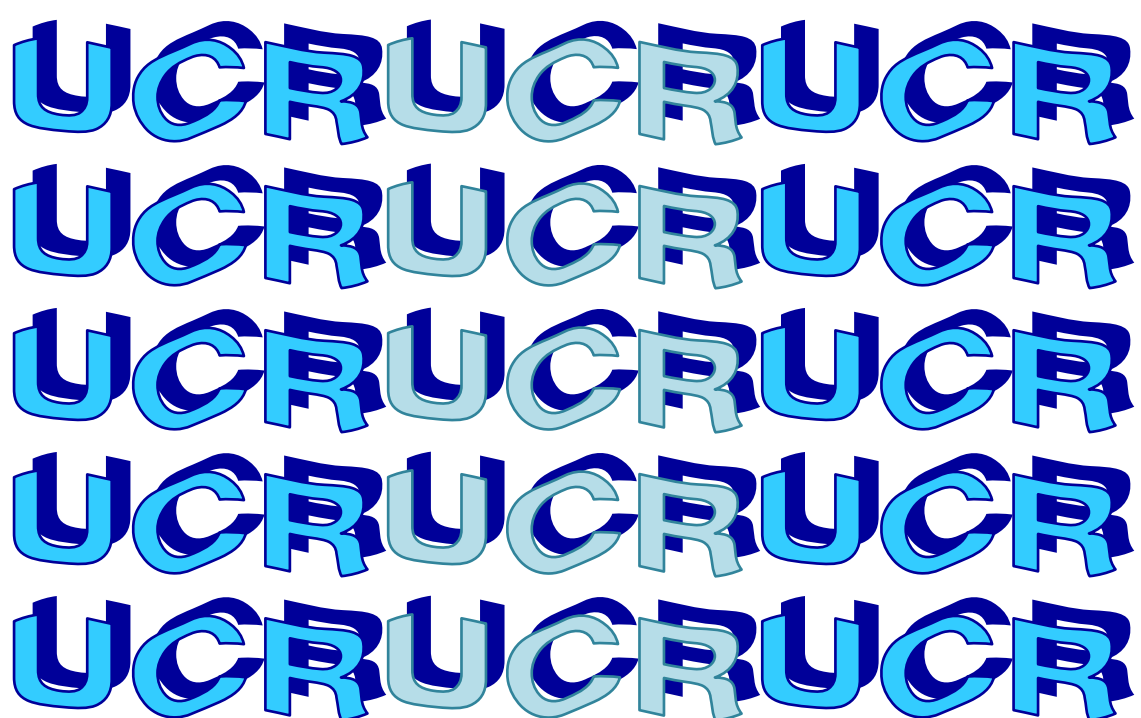
協定校等主催短期プログラム

グローバル教育センター



海外短期研修報告書
2014年度夏季





The experience of UCR summer program

生活科学部人間生活学科

若林佑希

I'd like to write about the reason I participated in this program. I started to learn English in elementary school and since then, I've been interested in it and also American culture. Before I went to the US, the biggest goal of my own was improving my speaking skill. In fact, however, nothing is bigger change in this program than knowing about myself.

First, I'm going to write about my class. I took IOF class which is for English communication. I studied pronunciation, grammar and conversation skill. There were 16 students in our class—from Japan, China, Korea and Saudi Arabia. I learned the difference of sound between what I've studied in Japan and native speakers. Of course there are many rules, but I think learning from listening is really important for us. Besides things what teachers taught us, I learned that the style of class was totally different from Japan. Our teacher always said "What else?", "Any other ideas?" and never contradicted what our answered and opinions. In Japan, students tend to hesitate to say something because they are afraid of mistake. On the other hand, the style of education in the US told me the importance of participation in class.

In the afternoon, my elective class was "Business English", which were learning situations related to business such as marketing, negotiating and advertising. Although the contents were little difficult for me, my classmates were really good at speaking English and had good ideas, which stimulated me so much. In addition, the teacher was so nice! I recommend you to take this class if you have a chance.

Second, the biggest thing which changed my mind is experience of homestay. We were only three people in my family: mother, sister and I. My host mother was always busy person due to not only a manager position, but also single mother. That's why it was hard for me to talk to her at first. But now, I think it was good challenge for me to act my own initiative. When I was completely disappointed of my host family and talked with our school adviser about that, she said to me that I should have tried to talk to her again and again and claimed that I wanted to speak English and also shouldn't have stayed my room if I wanted to communicate with them. She asked me, "Are you outgoing in Japan?" I answered confidently "Of course, yes." At the same time, I realized how difficult to explain our feeling in different cultures and languages. I became negative before I knew. After that, the more I tried to do, the more time she became to involve me in their conversation. Through this

change, I realized the importance of being aggressive in my life. If I had just hoped her for talking to me, there would have been no change and development. The situation was not easy for me, but I learned a lot from this difficulties. Now that, my host family and I have good relationship!

Moreover, host mother's parents, I mean my host grandparents, visited us for a week. They were very friendly so I could enjoy talking with them, especially grandfather. He was always kind and helped with my homework many times. During their stay, I also learned what American food was! They loved pizza, coke, ice cream, cheese...and so on! On the other hand, my host mother liked vegetable and Mexican food. It was good for my health!



This is my family! (with grandparents)

Third, let me write about school trip and after school. One of my big memories is camping in Yosemite National Park! We could enjoy a lot of beautiful nature and also barbecue in camping site. It took about 9 hours, but it was worthwhile for me. In this camp, the drivers and leaders were students of UCR main campus so we enjoyed talking with them in English through the three days. At night, the temperature of camping site was too cold to sleep! It was the first time for me to camp outside and I found it hard but also very fun!!

In the middle of August, I went to San Diego as school trip. We could see the pretty beach, which is called "La Jolla Beach". It takes just 2 hours from Riverside so the place is popular to visit. Most people who live in Riverside love beaches! My host mother said that I should have brought bathing suit all the time when I visited California.

By the way, can you guess how I made friends in UCR? Fortunately, I had to wait my host mother until around 6pm, so I could meet so many students in the rouge! Sometimes I asked to join conversation practice time, although I didn't have any own partners! In addition, I went to the main campus and made a friend, too. If you try to make friends, there are so many chances to meet them! The more times I met new friends, the more increasingly

confident I was in my English and to become aggressive.



Camping @Yosemite

Finally, this program told me a lot about myself, especially weak points. It was not always happy and fun, but it made me more aggressive and confident in myself. Now I can speak more fluently than before. Of course one of the reasons is class, but another reason is confidence, I think. In the future, I'd like to see my friends who I met in Riverside and talk about a lot of things in English!

I am grateful to all the people for every encounter.



They are my friends!! @rouge

語学研修を終えて

文教育学部 芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース 2年
内田鈴子

1. 研修に参加した動機

私が今回の研修に参加しようと思った理由は、英語を集中的に学びたいと思ったことはもちろん、海外での研修を通じて、何か自分の中に変化や成長を感じられたらと思ったからです。私は、中学高校と何度か短期留学や長期留学を経験したことがあるのですが、これまでの留学では語学がメインではなく、バレエ学校でバレエを学びつつ、日常生活での会話を通じて英語を学ぶという感じだったので、大学では語学メインの留学をして、英語力をさらに伸ばせたらと考えていました。また、これまでの留学を通じて、自分の中で、視野が広がったり、考え方が変わったりと様々な変化があり、今回の研修も絶対に自分にとって良い経験になるだろうと考え、参加することを決めました。

2. 留学先での生活

ホームステイ先のファミリーは、マザー、ファザー、ホストブラザーと中国からの留学生の4人で、皆とても親切でいつも陽気で面白い人たちでした。私を家族同然に受け入れてくれ、自分の家のようにくつろぐよう促してくれたため、居心地よく安心して生活することができました。休日には親戚の集まり等に連れて行ってくれ、そこでは親戚の同年代の子供達と交流ができとても楽しく良い思い出になりました。ホストファミリーとは日々の生活の中で様々な話をしましたが、アメリカの文化やカリフォルニアの魅力、リバーサイドの歴史等を話してくれ、貴重な異文化交流ができました。

留学先のUCRでは毎日1時間の授業が4コマあり、私はスピーキング重視のコースを希望していたため、日常生活の中での便利な表現や、実際の生活の場面に即した英会話、正しい発音やアメリカ英語のリダクションの仕方等について学びました。私のコースの授業は少人数で行われ、与えられたトピックについての生徒間の会話や、意見を出し合う、プレゼンテーションを行うといったことが中心で、先生の話聴いている時間よりも自分たちが話している時間の方が長いというのが新鮮で楽しみながら学ぶことができました。また、UCRのサマープログラムを受けていた学生は、サウジアラビアや中国、韓国、インド、ブラジルなど様々な国から来ていて、それぞれのホームカントリーでの生活や文化のことについても話す機会が多く、とても興味深かったです。特に印象に残ったのは発音のクラスで、日本人が苦手なrやthはもちろん、今まであまり気にしていなかった他の発音や舌の位置、英語特有のリズムやイントネーションまで細かく指導してもらい、とても勉強になりました。学校では授業以外にも様々な活動があり、放課後にカンバセーションパートナーといって、ボランティアの現地の方々やUCRの学生とテーブルトピックやゲームを行ったり、休みの日にカリフォルニアの様々な都市や観光地に行ったり、最終日にはアイスクリームパーティーもありました。どれも他の学生との交流やアメリカの文化を学ぶ良い機会になると思い積極的に参加しましたが、とても楽しく有意義な時間が過ごせました。





3. 留学を終えて

私は今回の留学を通じて、自分の中で変化したり成長したなと感じること、勉強になったなと感じることが多数あります。まず1つ目はもちろん、英語力の向上です。特に、日々英語が周りから自然に聞こえてくる環境の中で1ヶ月生活したことでリスニング力を大きく伸ばすことができたと感じています。また、学校の授業やホームステイでの生活の中で英語を話す機会が多くあったことで、スピーキング力や発音も少し進歩したのではないかと感じています。2つ目は、英語でのコミュニケーション力の向上です。日々の生活の中でどうしても英語で自分の言いたいことを伝えなければならないという必要に迫られる場面が何度かあり、流暢な英語は話せなくても伝えようとするのが大切であること、また、自分が伝えようとするれば相手も自分を理解しようとしてくれるのだということを学びました。また、学校の授業の中で様々な国からの留学生と会話したり意見を交換したりする機会があったことで、英語を母国語としない人同士のコミュニケーションの難しさを感じたと同時に、英語を通じて世界中の人々とコミュニケーションがとれるのだと改めて感じ、英語学習のやりがいや目的を再確認することができました。3つ目は、自分の意見や考えをしっかりと持ち、発言できるようになったことです。学校の授業では、意見を聞かれたり、例を挙げることを求められたりすることが多かったのですが、私は初めそれらを皆の前で発言する勇気が持てず、周りに合わせたがり、他の人が発言するのを待ったりしているだけでした。しかし、授業の回数を重ねるうちに段々と自分の意見を言ったり、自分から発言することに慣れていき、授業以外の場面でホストファミリーと話しているような時も、しっかりと自分の考えを伝えられるようになっていきました。日本に帰ってきてからも、研修前と比較して、様々な物事に関して自分の意見だったり自分はこうしたいという意志を強く持つことができるようになったと感じています。

私は、今回の研修を通じて学べたことや成長できたことが沢山あったと感じているし、何よりもアメリカで過ごした1ヶ月間がとても楽しかったので、もし今、留学を迷っている人がいたら、ぜひ短期研修に一度参加してみることをおすすめしたいです。もちろん、1ヶ月という短い期間の留学で、ネイティブスピーカーのような流暢な英語がいきなり喋れるようになるのは難しいです。しかし、毎日自然に周りからずっと英語が聞こえてくる状況で生活し、英語でコミュニケーションをとらなければならない状況に迫られることで、必ず何かしらの英語力の向上は感じられると思います。また、普段の生活を離れ、異国の文化や人々と交流することで気づけることや学べることは多く、留学の前と後で必ず自分の中で良い変化を感じられるので、海外研修はとても価値のある経験だと思います。私も、今回の研修で気づいたこと、感じたことを大切にしていって、残りの大学生活をさらに充実したものにしていきたいです。

私は7月30日から9月6日までの5週間、アメリカのカリフォルニア大学リバーサイド校での語学研修プログラムに参加しました。大学生になる前からアメリカへの留学に強い憧れを抱いており、大学生になって初めての長期休暇を何か意義のあるものにしたいと思い参加を決めました。今回の目的は異文化交流ををすることと、英語力の向上、特にスピーキングを頑張ることでした。今まで海外に行ったことはあるものの、1か月以上の長期滞在もホームステイも初めての経験だったので少なからず不安もありました。しかし研修が終わった今、とても有意義な研修だったと強く思っています。

平日は毎日 UCR のエクステンションセンターで8時半から3時半または5時まで授業を受けました。私の受けた授業は、TOEFL の対策講座、Academic Skill Writing, Reading and Writing の3つです。リーディングやライティングといった名前ばかりで英語を話す機会はないのかなと思いましたが、全くそのようなことはありませんでした。Academic Skill Writing では講義を受ける時のノートのまとめ方について学んだり、映画「The Great Debater」を見てディベートの方法を学び自分たちで議題を決めてグループでディベート大会をしました。Reading and Writing は2コマ連続の授業で、これが一番大変な授業でした。最初に小説や論文を読んで先生の出す問いについてみんなでディスカッションをしたり、エッセイやレポートを書いてクラスメート同士で読み合ったり、小説を自分たちで考えたり、プレゼンテーションをしたりと英語を話す機会がとても多くありました。エクステンションセンターにはアカデミックな英語を学びに、アジア、アフリカ、アラビア、ヨーロッパなど実に世界中から生徒が集まります。私は初めてエクステンションで授業を受けたときとてもショックを受けました。なぜならクラスメートの中に日本人は一人しかおらず、しかもその日本人の方を含め全員が英語をネイティブ並みに聞いて話すことができ、自分の意見をはっきりと積極的に言っていたので、自分との差を感じずにはいられなかったからです。私は絶対に授業についていけないと感じたので先生に相談をしたところ先生は、今まで英語を話す機会がなくてしゃべれないのは当然のことだから気にすることはないと言ってくれました。実際先生もクラスメートも皆優しくて、先生は授業前に私が分からないところを個別で指導してくれ、クラスメートも私が意見を言いにくいときに意見が言いやすいように誘導してくれました。私自身も優しさにずっと甘えていてはだめだと思い、宿題の他に毎日予習復習を欠かさず行いました。また頑張って自分の意見を言うよう常に心がけました。その結果1週間が過ぎたころから徐々に自分の意見を言い授業に参加できるようになりました。人生でこんなに勉強したのは初めてのことでとても大変でしたが、本来の目的である英語を話すことがたくさん出来ました。それに様々な国の人々と交流す

ることが出来て日本とは異なる文化についても学ぶことが出来て、とても実りあるものになりました。

またホームステイ先でも多くのことを経験することが出来ました。私のホームステイ先の家庭はお父さん、お母さん、おばあちゃんの3人でした。お父さんはポルトガル出身、お母さんとおばあちゃんはメキシコ出身でふたりの会話は基本スペイン語で、お父さんも親戚と話すときはポルトガル語を使うこともあり、様々な言語が一つの家庭の中で飛び交う環境は日本ではなかなか経験できないことであり、とても興味深かったです。ホストファミリーは私にいつもとてもよくしてくれて、休日にはハリウッドやサンディエゴなど様々な場所に連れて行ってくれて、たくさんの親戚や友達に私を紹介してくれたのでたくさんの現地の人と交流する機会を積極的に作ってくれました。お母さんは自分が英語を学んだ経験を通じて、英語を話すためのアドバイスをくれ、私にいつもたくさん話をしてくれました。また私が映画が好きだと話すと、映画をたくさん見せてくれました。お父さんはいつも優しく、おばあちゃんはスペイン語を教えてくださいました。普段生活をする中で、私が意見をはっきり言わないと Don't be bashful とすぐに言われました。日本では返事や意見を曖昧にすることはよくあることだけど、アメリカではそれが通じないということを身をもって知りました。またホストマザーとファザーが他の国の出身ということもあり色々な国のご飯を食べることもでき、様々なバックグラウンドを持った人々と交流することもでき、異文化交流を通じて今までと違った視点で物事を考えるようになりました。ホストファミリーのおかげで充実した楽しい生活を送ることが出来ました。

カリフォルニアでの5週間は本当にあつという間でもっと長く滞在したいと思いました。今回の研修で自分の英語力不足を痛いほど実感したりと大変なこともたくさんありましたが、それよりもたくさんの刺激を受け貴重な経験が多くできたので本当に参加をしてよかったです。自分の将来についても具体的に考えるようになり、長期交換留学に対する関心もますます高まりました。今回の経験を忘れずにこれからの生活に生かしていきたいです。



私は 2014 年度の夏期 UCR 短期研修に参加して、語学だけでなく、様々な国の文化や考え方についても学びました。そして、異文化に触れ合うことで刺激を受け、とても貴重な 5 週間を過ごすことができました。

研修に参加した理由

私がこの研修に参加した理由は 2 つあります。1 つ目はリスニングやスピーキングといった英会話の能力を伸ばしたかったことです。2 つ目に、アメリカ以外の異文化にも触れ合いたかったからです。この研修プログラムでは、滞在形式がホームステイであり、家でも英語でコミュニケーションをとることができ、また学校では、様々な国からの留学生が英語を学びに来ているため、私の目的に合っていると思い応募しました。

学校生活

授業は週 5 日で毎日 4 コマあり、午前中の 3 コマは会話に特化した授業でした。そこでは、殆ど日本人のクラスでしたが、お茶大以外の大学から来ている学生もたくさんおり、他の大学のことや UCR の寮生活についても彼らから知ることができました。また、授業では発言をすることが求められ、自分の考えを発信することの大切さを学びました。返答が間違っていたとしても、先生や周りのクラスメイトがフォローをしてくれたことで、間違ふことへの不安は徐々に薄れていき、それよりも、自分の考えをしっかりと持ち、周りに聞いてもらうことで相手の考えとの類似点相違点を認識することが必要だと感じました。また、授業中に 5 分程度のプレゼンテーションをする機会が何回もあり、最後のプレゼンテーションでサウジアラビアの女性とペアになりました。その時は、最初彼女のアクセントを聞き取ることが難しく困難そうに思いましたが、何回も確認を繰り返すことで、彼女と発表練習をする約束をすることができ、一緒に発表の内容や台本を考え、意見がぶつかり合うこともありましたが何度も話し合い、最終的に無事発表をすることができました。

午後の授業は、日本人が 2 人で、残りの殆どがサウジアラビア出身といったクラスでした。授業中に、数人のグループで先生から指示されたお題について、自分の国での経験を交えて話し合う機会が多くあり、その中で、日本とはかけ離れた文化について触れることができました。また、そのような違う文化を背景とする彼らの考え方や勉強に向き合う姿勢にも刺激を受けました。相手の文化や風習が違っていて最初は驚くこともありましたが、お互いのバックグラウンドを尊敬しながら話し合いをするこの大切さを痛感しました。休日には、学校主催のアクティビティに参加し、ヨセミテキャンプ、ディズニールランド、サンディエゴなどに行きました。ただアクティビティを楽しんだだけでなく、学校やホス

トファミリー以外の現地の人と会話をする機会があり良い経験になりました。

ホームステイ

私のホームステイ先は、子どもはいませんでした、30代のカップルでとても親切な方々でした。ホストファーザーはアメリカ人で、ホストマザーはブルガリア人でした。学校の授業では、アメリカ文化を学ぶプログラムではなかったため、ホストファミリーからアメリカの文化を学ぶことになりました。例えば、ホストファーザーが毎日料理をつくってくれましたが、アメリカでは、男性が料理や家事をすることは珍しいことではないと教えてくれました。また、ホストファーザーは NYC 出身で、彼も初めてカリフォルニアに来た時は様々な人種がこんなにも沢山いることに驚いたそうです。アメリカといっても、西や東で文化や英語の発音がかなり違うことも教えてくれました。



毎週末は、ホストマザーのブルガリア人の友人が遊びに来ていました。そこで、彼らも 10 年くらい前は、私と同じように、英語を学びにアメリカに来てホームステイをしていたと話してくれました。私のホストマザーも 14 年前に一人でブルガリアから来て、ホームステイをしていたのに、今では自分がホストマザーになるなんてと驚いていました。彼らは、今ではアメリカでの生活が長くなり、母国語でなく英語での会話を楽しんでいました。私もいつかはそのようになりたいと強く思いました。

最後に

UCR での 5 週間は、本当にあっという間に過ぎていってしまいましたが、異文化に触れ、もっと外の世界を見て視野を広げていかなければと痛感しました。これから先も、この経験を活かしていきたいです。行く前は、不安でいっぱいでしたが、思い切って参加して良かったと思います。今回の留学でお世話になった方々に感謝致します。

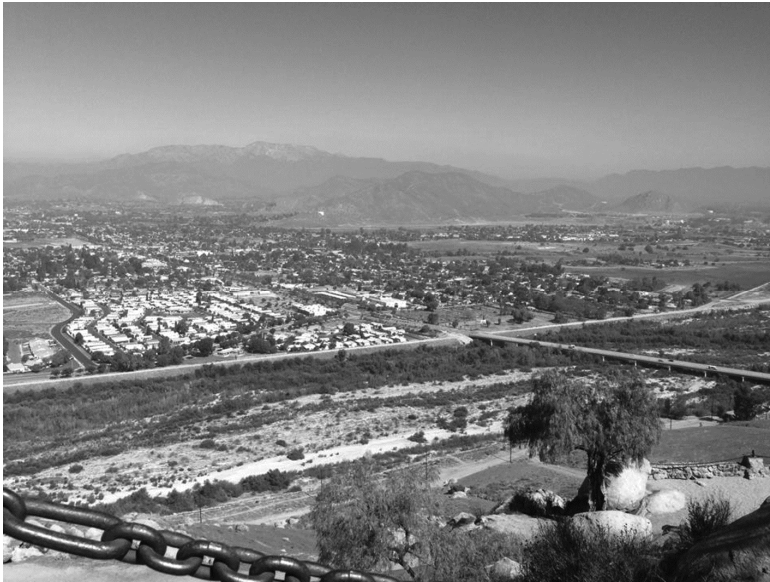
リバーサイドでの日々は、一日一日がとてもゆったりと流れていきました。雄大な大地とおおらかな人たちに囲まれ、毎日新しいことだらけの 5 週間は私の生涯において決して忘れることのできない時間になったと思います。そもそも私がこの研修に参加しようと思ったのは、時間のある大学生時代にしかできないことをやっておきたいという簡単な動機からでした。渡米する前の私は、社会人になってから「あのとき留学しておけばよかった」と後悔することがないようにという思いでいっぱい、これからアメリカで数えきれないほどたくさんの素敵な人たちと出逢い、二度はないと思えるほど恵まれた経験をする事になろうとは想像もしていなかったと思います。

私のホストファミリーはホストマザーたった一人でした。しかし、彼女は出会った時からとても印象的な女性でした。ご高齢のおばあさんの家にホームステイすると聞いていましたが、私を迎えに来てくれたのは、私の祖母よりよっぽど快活で元気で明るくおしゃべりなマザーでした。車を華麗に運転し、週末にはハイヒールを履いて協会へ出かけ、鼻歌を歌いながら晩ごはんの準備をし、高いところにあるものも脚立に乗って軽々と取ってしまうほどです。そして彼女は一日のほとんどを笑って過ごしていたように思います。ちょっと嫌なことがあった日は、不満を口にしながらも最後には結局笑い飛ばしてしまいます。一緒にいると私まで楽しい気持ちになって元気になりました。食生活や日々の運動にも気を遣っていましたが、そんな彼女の明るい性格こそが年を重ねるごとに彼女を魅力的にしているのだろーうと思いました。

大学では、他国からの留学生と授業をともに受けました。様々な国の学生とお互いに母国語ではない英語でコミュニケーションをとるという経験は、神秘的でとても感動したことを覚えています。同時に世界共通言語としての英語の重要性和偉大さを実感した瞬間でもありました。一方で、他国の学生たちが自らの国の歴史や文化について、誇りをもって話している姿を見て、自分の日本という国に対する無知さを痛感させられました。授業では、スピーキング・リスニングを中心とした英語力を磨くことができたと思います。自分の過去の経験や出来事、将来の展望などとにかく自分のことについて尋ねられ、スピーチやプレゼンテーションをする機会がとても多く、またそれを英語でわかりやすく伝えることは大変難しかったです。貴重な経験となりました。約 5 週間という短い期間ではありましたが、日を追うごとに一つ一つ日本語に訳すことなく理解できるようになっていくのが嬉しかったのを覚えています。

人が忙しく動き回る日本、小さな島国である日本を離れて、まるで本当の孫のように接してくれたマザー、様々なバックグラウンドや考えを持った他国の留学生の友達、生徒思いのユーモラスな先生方、アメリカという大きな国で育った人々、たくさんの素敵な人た

ちに出逢うことができました。その中で、自分の今までたどってきた道のりを振り返り、またこれから進んでいく道について考えました。海外での 1 か月以上にわたる滞在は初めてだったこともあり、心配事や不安もありましたが、帰ってきた今は第二の母国ができたような気持ちで、また少し恋しいような思いも抱くほどです。今回の研修で得たものを今後の生活に生かしていき、誇れる自分になっていつかまた出逢ったすべての人たちに会いに行きたいです。



私は 7 月 30 日から 9 月 7 日まで、カリフォルニア大学リバーサイド校での夏期短期研修に参加しました。昨年の夏、大学生になって初めての夏休みで、2 か月という長い時間が与えられていることに戸惑い、その時間を持て余してしまい後悔していました。大学 2 年の夏休みは時間を有効に使うと決心し、今回の短期研修に応募することを決めました。今まで海外に行ったことはあったものの、実践的に英語を使ったこともなければ長期滞在もしたことがなかったので、自分がどれだけ英語を使えるのかわからず、はじめはとても不安でした。

ホームステイ

私のホストファミリーは、2 人暮らしの老夫婦でした。また、同じ日に到着したカザフスタンからの高校生の女の子と同じ部屋をシェアしました。ファザーとマザーはとても優しく、しっかりと意思疎通ができるようにゆっくり話してくれたので、最初は緊張していましたがだんだんと本当の家のようにくつろげる空間となりました。2 人は今までに 100 人以上の留学生を受け入れたことがあり、いくつか日本語も知っていました。ルームメイトとはお互いの家族のことや学校のこと、好きな歌手のことなど、たくさん話をしました。彼女の母国語はロシア語なので、第二言語として英語を話す者同士、うまく伝わらないこともありましたが、日々コミュニケーションをとっているうちにスムーズにいくようになりました。毎日夕食後に 4 人でテーブルゲームをして遊んだり、ファザーとマザーのひ孫が遊びにきて一緒に遊んだり、なんだか新しいような懐かしいような生活だったように思います。8 月の中旬に、ファザーとマザーが 1 週間の「タイムシェア」という休暇をとることになったので、ルームメイトと 2 人でその友人の家庭に 1 週間だけ引っ越しをしました。そこは韓国出身のマザーが 1 人暮らしをしているお宅で、同様に今までに多くの留学生を迎え入れたことがある方でした。短期研修でありながら、2 つのホストファミリーを持つことができたのは本当に貴重な経験だったと思います。

クラス

最初のオリエンテーションと同時に受けたテストの点数によって、クラス分けが発表されました。一定の点数以上の人は、普通のクラスとは別に **Improving Oral Fluency Program** というスピーキング、リスニングに特化したクラスを選ぶことが出来たので、せっかくだから英語が「使える」ようになりたいと思い、そのクラスを選びました。いざ授業が始まると、クラスには 7 月から参加している学生が何人かいて、私たちお茶大生は 7 月・8 月クォーターの後半から参加することになっていました。最初の 1 週間はまわりの人の英語を聞き取ることに精いっぱい、既存の学生に遅れをとっているという感覚がありましたが、先生も他の学生もわからないことがあればすぐに教えてくれて、2 週目からは徐々に慣れて

いきました。授業内容は、発音、文法、実践的な応用クラス、選択教科でリスニングを受けました。授業を受けていて感じたことは、オーラル重視ということもあって「自分の考えを相手に伝える」ことが多いということです。プレゼンテーションなどの他に、授業の中で必ず数回は回りの人と短くディスカッションする時間が設けられていました。このようなちょっとした会話でも、自分の思うように英語が口から出て来ず、もどかしい思いをしました。日本人に対してよく言われることですが、紙のテストで問題を解けば絶対にわかるという簡単な文法事項ですら、話そうとすると意識が回らなくて抜け落ちてしまったりして、やはり英語を話すためには話す練習をしなければ何の意味もないと改めて感じました。相手とお互いの考えを共有し、英語で意見交換ができたときは、とても充実感がありました。また、クラスメイトと接する中でそれぞれの国の訛りがある英語を聞き取ることの難しさに気付きました。韓国やサウジアラビアから来た留学生と会話をするときや、メキシコ系や中国系の UCR のスタッフと会話するときなど、ネイティブスピーカーではない人々の英語を聞く場面は多くありました。ネイティブのような発音を目指すことはもちろんですが、訛りがあったとしても、英語を勉強していれば世界中の人とコミュニケーションがとれる、ということ、身をもって体験しました。自分にとって衝撃的だったのは、アメリカに滞在して初めて、これらのことに気が付いたということです。日本にいたうちから英語が話せるようになれば良いなと思っていましたが、自分で考えたことをとっさに英語で話すことがこんなに難しいということ、アメリカには英語を母国語としない人がこんなにたくさんいて、皆が英語を話して生活していることなど、きっとアメリカに来なければずっと気付かなかっただろうということ、こうして身をもって体感することが出来ました。

文化

授業以外の生活でもアメリカの文化を体感することは多くありました。カリフォルニアはメキシコとの国境にあり、ヒスパニック系の人々がたくさん住んでいます。週末のオプショントリップのエスコートをしてくれたスタッフも、家族とはスペイン語で会話をしていると言っていました。また、ヒスパニック系以外でもアメリカ人は皆世界中にルーツを持っていて、ヨーロッパ、アジアなど様々です。また、ルームメイトの出身であるカザフスタンも、カザフ系、ロシア系、イスラム系など多くの民族が一緒に暮らす国だということを教えてもらいました。日本人は「日本人」だというイメージを持っていた私は、この違いをととても興味深く感じました。

今回の短期研修で学んだことは、コミュニケーションツールとしての英語の大切さはもちろんですが、自分の考えをしっかりと持つこと、多くの人々に会えたことです。短い間ではありましたが、周りの人々のおかげでとても楽しく過ごすことができ、今まで気付かなかったことに気付くことができました。このような貴重な機会を与えてくださった多くの方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

英語を話せるようになりたい、との思いから海外留学に憧れを抱いていました。特に英語が得意なわけでもないのですが、英語を用いて外国の方々とコミュニケーションをとっている友人や芸能人を見て、留学すればきっとペラペラに話せるようになると思い込んで申し込みました。カリフォルニア大学のプログラムにはコミュニケーション能力を向上させる授業がある



こと、短期プログラムの中では最も長い6週間外国に滞在できること、ホームステイであるため英語漬けの生活が送れること、中学生のころから学んできたアメリカ英語がどのくらい使えるのか試してみたいという理由でカリフォルニア大学を選びました。留学を決めてから英語検定に挑戦したり、図書館でDVDを英語字幕と英語音声で見たり、ラジオ英会話や受験生の時に使っていたリスニング教材を聞いたりするなど、なるべく英語に触れるように努力していました。試験の勉強は合否やスコアが出るので、勉強の成果が分かりやすくおすすめです。初めての海外であったのですが、出発前に目標の級に合格できたことは自信につながりました。

初日に受けたテストの結果によって、コミュニケーションのクラス（IOF student と呼ばれます）を選択することができました。午前中に IOF 授業を3つ、午後に自習のための60分と、選択授業1つがありました。IOFでは中学校程度の文法や発音の授業をすべて英語で行います。ノートを取るのではなく、円形に椅子を並べ、各自の発言が中心となる授業です。あなたの経験を話して、と言われることが多く、日常の些細な出来事でさえ、どう自分が感じたか言葉にすることが求められました。ストックがないと何も考えのないつまらない人間になってしまいます。授業がより楽しくなるのかどうかは自分たち生徒の発言にかかっているので、面白いことはないか、より周囲に関心をもつようになった気がします。過去の自分を思い返す機会にもなりました。また、ただ発言するだけでなく先生や友達の発言に対して、的確なリアクションをとることも必要でした。へえ、の一言でなく、感情を述べたり、質問をしたりして、相手に興味がある、もっと話してほしいと気持ちを表さねばなりません。そのためには相手の話をよく聞かねばならないのですが、ネイティブスピーカーや日本人の英語は聞き取れても他国の留学生の英語は聞き取れないことや、反対に、私の発言に対して、先生と日本人留学生は理解してくれても他国の留学生が聞き取ってくれないこともあり、円滑なコミュニケーションはなかなか難しかったです。次第に慣

れてきてお互いの会話がスムーズにできるようになったときは、聞き取り能力が上がったと実感できて嬉しかったです。選択のボキャブラリーの授業では、見たこと、聞いたことのない単語ばかりを覚えなくてはならないのですが、どんな意味だと思うか、類語、反意語は何かなどの発言を促されました。分かりませんが通用せず、定義が決まっているはずの単語にさえ、どう思うか自分の意見を述べなければなりません。また新しい単語をより適切な状況下で使えるように特定の使用場面を2, 3人のグループで考え討論するなど、新しい言葉を教えてもらう授業でありながら受け身の時間は全くなかったように思います。授業では他国の留学生の豊富なボキャブラリーに圧倒されました。今までは単語が読め、意味をなんとなく類推できれば覚えたものだと満足していました。しかし他国の留学生は類義語、反意語を含めて単語の意味を丁寧に説明してくれました。言葉を自分のものにするとはこういうことなのかと語学への勉強の考え方が大きく変わったように思います。

週末には追加料金を払えば、観光地に連れていってくれるオプショントリップがあり、ビーチ、ショッピング、ディズニーランド、ヨセミテ国立公園など様々な場所を訪ねることができました。遊ぶだけでなく、ハイキング、キャンプ、日本人の移民の歴史について学習する機会もありました。

ホームステイでは、なるべく家族に溶け込めるように努力しました。朝食と昼食は自分で用意するのがルールだったので、毎朝シリアルを食べ、お昼にはサンドイッチとフルーツ、スナック菓子を持っていきました。夕食はお腹がすいた人から好きな量だけ食べていくのが慣習になっており、決められた量を家族そろって食べる日本での食事の違いに最初は戸惑いました。夕食後はみんなで映画を見たり、ダンスをしたり、おしゃべりを楽しみました。ショッピングやユニバーサルスタジオにも連れて行ってくれ、家族の一員として温かく迎え入れて接してくれました。希望通り英語漬けの生活を送ることができ、自分の発言にホストファミリーが笑ってくれると、英語で会話ができている実感を持ってました。日常会話は受験英語で勉強するようなリスニングとは全く異なり聞き取るのが大変でしたが、何度も聞き返したり、ゆっくり話してもらったりすることで何とか意思疎通ができました。兄弟げんかや、叱られている場面に何度か遭遇し、現地の人を使う自然体の英語を体感できました。

日本から離れることで、日本の治安の良さや優れた技術、体に良い日本食を一層誇りに思うようになり、また家族や友達にどれほど支えられて生きてきたかに気づけました。アメリカに留学したことで、語学を含め勉強への意識が変わり、中身のある人間として意見が言えるように知識や内面の自分磨きをしていこうと意欲的になれました。6週間では当初の目標であった不自由なく会話をするというのは達成されませんでしたが、上達する可否かは、アメリカにしようと日本にしようと自分の努力次第なのだと思います。少しだけ身に付いた会話の能力を更に向上させられるように英語の学習を続けていきたいです。

2014 年 7 月 30 日から 9 月 7 日の約 6 週間、カリフォルニア大学リバーサイド校での夏期短期研修に参加してきました。研修が始まる前は 6 週間という期間をとっても長く感じていましたが、実際はあっという間でした。

私が学部 2 年の夏休みにアメリカでの留学を希望した理由の一つには英語力の向上があります。昨年度に ACT クラスを履修したところ、クラスメイトが自信を持って英語を話しているのに刺激を受けました。私は自分の英語力に全く自信がなかったので、海外研修を通して少しでも自信を持てるようになりたいと思ったからです。また今のうちに英語の勉強をしておけば、今後の専攻の研究にも役立つだろうとも思ったからです。

しかしこれ以上の理由があります。海外での生活を経験してみたかった、ということです。私は今まで旅行という形ですら、ほとんど海外に行ったことがありませんでした。そのため海外に対する強い抵抗感がありました。今後自分の専攻の研究を進めていくときに、その抵抗感で自分の選択肢の幅を狭めたくないと思い、今回の研修を通してそれを少しでも減らせたらいいなと思っていました。

この研修は、とても充実したものでした。参加してよかったと心の底から思えるものでした。一瞬たりとも無駄にできることはありませんでした。見るもの、聞くもの、すべてから学ぶことができました。日本にることとの一番の違いは、もちろん言葉が英語であることです。そしてこの英語は、コミュニケーションの唯一の手段であることです。日本で英語を話すとしたら、たとえ英語が通じなくても日本語や文化的な背景から相手を理解することが出来ます。しかしホストファミリーや他の国からの留学生とのコミュニケーションにおいて、そんなことは出来ません。自分が話す言葉がすべてです。私は英語に慣れておらず、気を抜いていたら言葉が頭に入ってこなくなってしまうので、常に周りに集中している必要がありました。また自分の言いたいことを伝えるにも、よく考えてから、発言する必要がありました。これはとてもいい勉強になりました。夢の中でも英語を話すくらいに英語に浸った生活ですから、次第に慣れて、自ずと英語が出てくるほどになりました。また、日本で英語を学習するのとは違う感覚でした。英語は日本語に当てはめて理解するのではなく、英語は英語として理解するようにしました。これもまた、海外で学ぶことの 1 つの利点だと思います。英語の文化に触れることができ、それが理解の助けになりました。これらもふくめ、英語でコミュニケーションをとるのはとても楽しかったです。しかし一方で、大変疲れました。慣れない海外生活、そして通じない言葉。疲れたと感じなくても、気づかぬうちにストレスが溜まっていました。そんなときには、一緒に研修に参加した仲間と日本語で話したり励ましあったりしました。いくら英語が上手くなっても、第 2 言語であって、母語とは異なります。もし自分一人だけで参加していたら、乗り切れませんで

した。一緒に頑張る仲間がすぐそばにいてくれたことで、とても安心できました。大学での募集に参加してよかったと思う理由の一つです。

そして肝心の海外への抵抗を減らせたのかどうかですが、答えはもちろん YES です。今ではカリフォルニアに住みたいと思うくらいです。すこしはその生活に慣れることができたと思います。住、そして食。行く前の不安要素はほとんど気になりませんでした。これは自分でも意外で、未だに驚いているところです。

ホストファミリーにはとても感謝しています。いつでも温かく迎えてくれて、「帰る場所がある」ことに安心できました。また「日本に帰る」という、これもまた帰る場所があることが安心感になりました。

この研修は、非常に充実したものでした。しかし同時に多くの課題も見つかりました。L と R の発音、スピーキングの流暢さ、そして自己管理（主に生活面）の不十分さ等が挙げられます。それに今回獲得できたリスニング・スピーキング力等をどのように維持していくか。英語の学習については、日本という環境は良くないと思うように進めることができずにもどかしい部分もありますが、そんなこと言ってられません。この研修をより意味のあるものにできるかどうかは今後の自分次第なので、まだまだ気は抜けません。だけど今、モチベーションは高いです。

参加してよかった、と本当に思います。ホストファミリー、クラスメイト、一緒にいてくれた仲間、出会ったすべての人、渡辺先生をはじめとして準備に協力してくださった方々、本当にありがとうございました。



私にとって、この研修が初めての海外経験でした。旅行でも日本から出たことがないため、この目に映るすべてのものが新鮮で驚きに満ちあふれています。その中で特に印象的だったものは、アメリカの食習慣でした。

もちろんホームステイ先のご家庭によって事情は異なりますが、多くのアメリカの家庭は日本に比べ、食事が質素です。朝食はシリアル、昼食はサンドイッチという人が多かったように思います。日本人のように、朝早く起きてバランスのよい朝食とお弁当を用意するということはあまりないようです。特に中高生の子どもの持つ日本の母親は、子どものために早起きをしてお弁当をつくっている人も多いので、最初のうちは少し違和感がありました。

私のホストファミリーも、朝食と昼食は各自で用意するという方針でした。そのため、私の朝食はシリアルで、昼食は前日の夕食の残り物をタッパーに詰めて持って行くことが多かったです。冷蔵庫にある食材など自由に使ってもと言われていたので、ルームメイトは毎朝サンドイッチを作っていました。私の家では食材を勝手に使って料理を作ると叱られてしまうので、これも印象的でした。日本には「台所は女の城」だとか、「台所に女二人はいらない」だとかいった言葉があり、実家暮らしの私はどうしても「台所は母親のもの」という印象を抱いてしまいます。もちろん日本でもアメリカでも家庭によって事情は違うのですが、傾向としてはアメリカのキッチンのほうが開放的で、誰か一人のものではなく家族みんなの場所なのだと感じます。

夕食もまた私の実家とは様子が違いました。日本の典型的な食卓は、なんといっても一汁三菜。ご飯があって、味噌汁があって、肉や魚などの主菜があって、さらに二品ほど副菜があるのが理想的ですし、食事を作る際にはそうなるように心がけます。しかし私のホストファミリーの食卓は、時にリゾットのみでおかずがなかったり、逆におかずのみで主食にあたる炭水化物がなかったり、ファストフード店で買ってきたフライドチキンのみだったり、ハンバーガーとポテトのみだったりしました。日本ではあまり考えられないことなのではないかと思います。

私たちは小学生の頃から学校で食育を受け、厚生労働省の示す食事バランスガイドの図は何度も目にしました。もちろん、日本にだってあまり食事のバランスを気にしない人はいます。仕事などが忙しくて、バランスのよい食事を作る余裕のない人もいます。しかし日本人の、特に女性は、どのような食事はバランスがとれていて健康によいか、逆にどのような食事がそうでないかをおおむね理解しているのではないのでしょうか。

もちろんそれは大変素晴らしいことです。日本の優れた食育の賜物です。あまりにも食事に無頓着だと、生活習慣病の罹患率がぐんと上がります。今、世界中で日本食が注目されているのも当然のことだと頷けますし、私だってアメリカの食生活より日本の食生活の

ほうが好きです。しかし、日本人の持つこの食事への高い意識は、時に日本の女性をひどく苦しめているように感じられてなりません。家族のために誰よりも早く起きて、バランスのよい朝食を用意し、お弁当をつくり、夕食のためにご飯を炊いて味噌汁をつくって主菜のほかにもおかずを二品以上用意するという、途方もない作業を毎日一人でこなしている女性が未だに多く存在します。最近ではレトルト食品や出来合いのお惣菜などを買って、少しでも料理の負担を減らすことができるものの、日本人の「手料理」に対する執着の強さには驚かされることがあります。品数が多いと配膳にも一苦労です。

また、家事の違いは料理だけではありません。洗濯だって、アメリカのほうがずっと楽です。アメリカでは毎日洗濯をするわけではありません。多くの場合、一週間に一回、主に休日にまとめてするそうです。洗濯をした後も、日本のようにわざわざハンガーにかけて屋外に吊るし、定期的に乾いているかチェックし、雨が降り始めたらあわてて取り込むようなことはしません。そのまま乾燥機に入れてしまいます。しかも、私のホストファミリーの家庭では自分の衣類を各自で洗濯していました。妻・母親に任せっきりではないのです。食器だって、使い終わったら各自で食器洗い機に入れておきます。家事を短縮するすべをあますことなく使いこなしているという印象を受けましたし、家事は女性だけがするものという意識も、日本に比べればずっと低いです。

私は男女のワーク・ライフ・バランスについて勉強をしていることもあり、こういった違いに興味を持たずにはいられません。日本では主に家事を担っているのが女性で、男性の家事参加が少ないことが女性の社会参加を阻むひとつの大きな原因なのだと、私は今まで考えていました。ただし、この考えの背景には、「家事は重労働である」という前提の意識があります。しかし、本当に家事は重労働なのでしょうか。もっと楽にする方法が本当にはないのでしょうか。もちろん、男性や子どもがただの「お手伝い」ではなく、ちゃんと自分の身の回りの家事を自分でできるようになることは重要です。けれど、そうやって家族の構成員で家事をシェアして一人にかかる負担を減らすだけでなく、家事そのものの絶対量を減らすことができれば、もはや家事は重労働でなくなります。仕事や育児や趣味の合間に、大きな負担を感じることもなくできてしまうでしょう。

日本では、あまり家事をしない女性が非難されます。洗濯物を溜め込んだり、洗濯後に衣類を干す手間を省いて乾燥機に入れたり、食器を手洗いせずにすべて食器洗い機を使ったりするようなことがあれば、きっと「だらしない」と言われてしまうでしょう。料理に対してはさらに厳しく、たまにはレトルトや出来合いのもので済ませることがあっても、基本的には美味しくて栄養満点な手料理を家族みんなのために提供することが求められます。多くの日本の家庭にとって、洗濯は毎日して、洗濯物は外に干して、食器は手洗いして、食事は出来る限り手作りのものをバランスよく用意することが当たり前だからです。

当たりの前ができないと、人から責められたり、自分で自分を責めたりしてしまいます。でも、日本人の思う当たりの前家事は、日本から出てしまえばもはや当たり前ではありません。私は、異なる文化を知る大きな意義のひとつがここにあると学びました。狭い世界で「常識」や「当たり前」にとらわれていた考えを解放し、生活をより快適にする

ための手段として受け入れることができれば、それは大変価値のある経験になるのではないかと思います。

5 週間に渡るカリフォルニア大学リバーサイド校への短期語学研修及びホームステイを通して、私はたくさんのかげがえのない経験をし、充実した時間を過ごしました。私がこの短期語学研修への参加を希望した理由は、異なる文化や価値観、生活スタイルが存在し、さらには、多文化・多国籍の人々が共生するような環境に身を置き、新たな出会いや発見を通して自身の視野を広げるとともに、様々な経験を通して人生を豊かにしたいと思ったからです。また現地の生活により密に接したいと思ったことと、ホームステイは今後経験することが難しいと思い、ホームステイができるこのプログラムへの参加を希望しました。そういった点に関して、当初の目的を十分に果たすことができた有意義な 5 週間になったと思います。以下いくつかの項目に分けて、詳細を述べていきます。

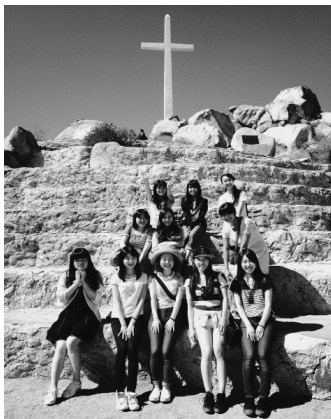
まず初めに大学に関してですが、私が 4 週間通った大学はメインキャンパスで学ぶことを目指す留学生用のエクステンションで、中国・韓国・サウジアラビアを始めとするアジア人、ロシア人、南米の人など、他国籍の生徒にたくさん出会いました。エクステンションがメインキャンパスから離れており、またメインキャンパスが夏季休暇中であったため、メインキャンパスの生徒に出会う機会が少なく、主なネイティブスピーカーは先生と家族、アクティビティなどで出会った生徒でした。午前の授業は、文法、発音、オーラルの 3 つで、最初に実施されるテストに基づいてクラス分けがなされました。午後の授業は選択科目となっており、10 数個の選択肢の中から私はアメリカンイデオムを選択しました。授業ではディスカッションをする機会が非常に多かったです。自分の意見や経験を述べなければならず、日本のこれまでの授業とは大きく異なり、最初は難しく感じましたが、自分の意見や経験を分かり易く的確に英語で述べる機会を持てたことは非常に良かったと思います。午前のクラスは、日本人が多いクラスでしたが、午後のクラスは様々な国籍、幅広い年齢の生徒で構成しており、ディスカッション時に聞ける話もバラエティに富んでいて楽しかったです。

次にホームステイに関してですが、ステイ先は両親と同年代の双子の姉弟の 4 人家族でした。本当に素敵なファミリーに迎えられ、5 週間、食事・洗濯などを始めとするライフスタイルや人間関係など全てに関して何の不自由もなく、楽しく過ごすことができました。ステイ先は初めての生徒受け入れでしたが、何の問題もなく、一緒にハイキングしたり、プールで泳いだり、教会やジム、ビーチ、パーティに行ったり、また家族旅行にまで連れて行ってくれたりとお客様ではなく家族の一員として迎え入れてくれました。家事は私を含め家族で協力・分担してこなしていました。またホストシスターとは年が近かったため、一緒に買い物に行ったり、お菓子や小物を作ったり、時間をともにすることが多かったです。またホストブラザーが障害を抱えていたため、アメリカの障害者に対する人々の

意識や、駐車場やスロープなどの社会設備などについて見聞きでき、普段学び得ない多くのことも知ることができました。ホストファザーとの会話では、宗教・経済・政治の話題になることも多く、英語表現が拙いこと以上に、日本人として当然知っておくべきことに対する知識不足を痛感しました。分かる範囲で答えて、その後インターネット調べて、後で補足説明することもありましたが、日本人として自国のことに関して説明できるように、常日頃からもっと興味を持つべきだと再認識しました。

次にオプショントリップについてですが、週末には UCR 主催のオプションツアーがありました。内容はバラエティに富んでおり、ロス観光・各テーマパーク・ビーチ・山などです。実際にいくつかのトリップに参加し、素敵な思い出を作ることができましたが、一点気になったことは若干費用が高いように感じたことです。長く滞在している友人に後から聞いた話ですが、夏休みのためか先月よりも参加費が数十ドル上がっていたそうです。しかしやはり折角の機会なので参加して良かったなと思います。

最後に、この短期語学研修への参加を決めてから現地到着後の数日間は、楽しみでありながらも、多くの不安を抱き、また違った夏休みの過ごし方もあったのではないかと思います。しかし、不安は全て杞憂に終わり、毎日が楽しく、貴重な経験や出会いに溢れていて、あっという間の 5 週間でした。またこれからの人生をどのように送っていくべきかを考える機会をたくさん持つことができ、参加して本当に良かったです。このような機会を提供し支援して下さい皆様心より感謝いたします。



Manchester Manchester Manchester
Manchester Manchester Manchester
Manchester Manchester Manchester
Manchester Manchester Manchester
Manchester Manchester Manchester

初めての海外。中学生の頃から、海外に一度は行ってみたい、けれど何となく行きたくない気もする、というもやもやした気持ちをずっと持ち続けていた私は、大学 2 年にしてやっと「海外へ行くのだ！」という決心がついた。行くのであれば、イギリス。そこは譲れない。大英博物館へ行って、ロゼッタストーンをこの目で見るのが、この語学研修の目的の半分を占めていたからである。もちろん、英語でのコミュニケーション能力の向上も大事な目的である。

自分の今の英語能力のままで飛び立っていいものだろうか。少し鍛えてから臨むべきでは？という考えが、語学研修に行く 3 ヶ月前くらいからずっと頭の中にあった。その考えは実行に移され、ランゲージ・スタディ・コモンズで TELL ME MORE を学習するという行動に至った。（しかし実際は、十数回ぼちぼちとやってただけで、それが語学研修にどのくらい役立ったのか、と聞かれると私は答えに詰まる。）

さて、海外へ行くことが初めての私は、飛行機に乗ることもまた初体験であった。「飛行機は怖いもの」と一途に思い込んでいた私であるが、乗ってみて思ったのは、「何とも楽しい乗り物！」ということであった。離陸の際にふわっと体が浮くあの感覚。気流に入ってしまったぐらつくあの感覚。隣に座る友人が顔色を悪そうにしているのを横目に、私はニコニコして飛行機という乗り物を存分に楽しんでいたのであった。

本論に入ろう。マンチェスター大学での私の成長について語りたい。成長というと大げさであるし、仲間は私より格段に成長している人ばかりであるが、私もある程度は進歩したのだと感じている。そう感じたい。

学校初日、クラス分けのために試験と面接があった。記述問題の時、私の頭と手はのろのろと動くばかりで、与えられたテーマに関しての自分の意見や主張が全く出てこず、みんなが必死に紙に食いついているのを、羨望・焦燥・絶望などの入り交じった気持ちで眺めていた。何だろう、でも心配でたまらないという訳ではなかった。何とかかなるさ、今から向上させていくんだもの。なぜか開き直って、次の面接に臨んだ。この面接で、私は初めて英語をちゃんと話さなければならないと感じたのかもしれない。でもちゃんとした英語？大丈夫かな、この表現？この日本語を英語に変換すると？言葉がなかなか出てこない私に対し、面接官は「あなたの話を聞きたいの」という表情をしてくれていたし、話しやすそうな話題を提供してくれたりした。しかし、である。私の英語はたどたどしく、今振り返ってみても何を話したのか覚えていない。（そもそもあれが英語だったのかすら怪しい。）これはまずいぞ！「何とかかなるさ精神」が悪い方向に働いていないか？

次の日から授業が始まった。最初が肝心、きちんと挨拶をしましょう。と自分に言い聞かせ、教室に到着。“Hello~” にっこりしながら挨拶することは大事。なんか昨日より英語が話せているかも。これはいけるな、この調子で何か話そう！という気持ちを持たないと！授業内ではペアになって話すことを要求される場面が多く、自分の考えやその理由まで説

明しなければならない。これは結構きつい。単語を繋げて繋げて文章にして、何とか相手に伝える。この繰り返し。1、2週間でこの感覚に慣れ、相手に“Why?”と聞かれなくても“Because～”と話を続けられる自分が誕生した！

授業ではプレゼンテーションをする機会も与えられた。3回ほどそのような機会があった。日本語でのプレゼンテーションに苦手意識を感じていなかった私は、英語もまあ同じようにできるだろうなんて、簡単に思っていた。案の定、1回目はボロボロ。原稿をガッツリ読み、発音は不明瞭、グループ内で話す内容が重複。面接の時以上に危機感を感じたかもしれない。反省を踏まえて、原稿を自分の頭の中に染み込ませるほど練習しないとだめだ、と感じて臨んだ2回目、3回目は1回目とは見違えるほど上手に発表できていたのではないだろうか。と私は自負している。

イギリスに行く目的、それはロゼッタストーンを見ること。その機会は8月下旬の週末に訪れた。歴史学を専攻する私にとって大英博物館は興奮が頂点に達する最高の場所！本当は全展示を何日でも眺めていたかった。そんなこと到底不可能なのは周知の通り。メインの展示を見て周ることで精一杯であった。ロゼッタストーンは人気があり、展示ケースの周りには人がうじゃうじゃしていた。それをかき分け、するっと一番前に行き、位置に書かれた文字を見て、ふぉーっと感激する私。解説も頑張って読んで、とても満足。これで私の目的は達成された！

マンチェスターでの生活についても触れておこう。治安はよく、ロンドンからの帰りが夜遅くなったときは少し怖い感じがしたが、危険な目には全く遭わず、安心して普段は過ごせた。そして食事はというと、イギリスはやっぱりジャンクフードだ。美味しくないが、食べられないわけではない。この語学研修中にフランスに行くこともできたが、イギリスの食事に慣れた頃にフランスの食べ物を食べた私は、友人とともに、いかにイギリスで食べていたものがジャンキーで、フランスのものが日本人の舌に合うかということを語ったほどである。しかし、アフタヌーンティー、特にスコーンはとても美味しかった。きっとカロリー高いんだろうなと思いつつ、何度も食べたくなるスコーン。私がイギリスに関して何か恋しがるとしたら、このスコーンしかありえないだろう。

最後に、今回の初めてづくしのこの体験は、私に非常に有益なものをたくさん与えてくれたように思う。単に語学力が向上するだけではなく、視野を広げ、コミュニケーション力を向上させ、私という人間を形成する重要な一部分となった。5週間、長いようでとても短く、楽しい時間を過ごすことができた。

研修に参加した動機

「英語の総合的な力を向上させたい」という思いから、私はこの短期語学研修に応募することを決めました。マンチェスター大学のこのプログラムは、週 15 時間コア英語をじっくり学べるということで、5 週間という短い期間でも意欲を持って取り組みれば、英語力の向上につながるだろうと感じたからです。また、私は比較歴史学コースを主プログラムとして希望し、特に西洋史には強い関心を持っていたため、大学一年生の夏休みの間に、自分の目でイギリスという国を一度見てみたいという思いもありました。

研修プログラムについて

授業は、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングについて学ぶコア英語と、イギリスの文化について学ぶターゲットモジュールの二つで構成されていました。

コア英語は、二人の先生が担当して下さい、二人とも、とても明るく優しい先生でした。また、英語を実際の生活の場で使うことを重要視していて、教室の外に出てマンチェスターの町の人に話しかけるというアクティビティが印象的でした。またクラスのみんなの前でプレゼンテーションをする機会も多くありました。先生は度々「一番大切なことは、英語で話すこと」という言葉を繰り返していました。私は、元々人前で話すことが苦手だったため、ましてや英語でプレゼンだなんて…、と初めは不安で一杯でしたが、クラスの雰囲気はとても温かく、頑張ろうと思えました。回を重ねるごとに英語で話すことへの抵抗感が薄れていき、これは大きな収穫だったなと思います。先生は発表前には、一人ひとりの原稿の文章が文法面で正しいかを確認して下さいだけではなく、どうしたらより「自然な英語」になるのかをアドバイスして下さい、細かな発音をチェックして下さいしました。贅沢な経験だったなと感じています。最後のプレゼンテーションでは、テーマが自由に選べたので、私はイギリスの女流作家について発表しました。皆の発表を聴くのはとても楽しく、自分の趣味や好きなものを英語を使って紹介し、コミュニケーションをはかることは、人生を豊かにするなと実感しました。また、「伝える」という思いを持って、自分をいい意味で前に出すことが、必要だと感じました。最後に先生が贈って下さった「Don't be afraid of making mistakes.」という言葉に胸に積極的に英語を話すことを実践していきたいと思っています。

ターゲットモジュールの時間では、イギリスの文化ということで、歴史、音楽、スポーツなど週ごとに異なるテーマを扱い、毎週金曜日にはそのテーマにちなんだスポット（博物館や図書館など）に訪問しました。私は毎週この日をとても楽しみにしていました。ペアやグループでの行動が主で、初めの週私は、中国人の女の子とペアになりました。自分が伝えたいことを英語に出来ないもどかしさを感じることはもちろんありましたが、それよりも何より一緒におしゃべりしたり、カフェに行ったりしたことの楽しさが一番大きかったです。また、彼女は日本語も驚くぐらいよく知っていて、日本の文化（アニメや食べ物など）にも詳しくかったです。お互いにそれぞれの国の簡単な挨拶を教え合ったのも良い

思い出となりました。

週末の旅行について

授業だけでなく、週末の旅行も強く心に残っています。一週目はマンチェスター市内、二週目は泊りがけでロンドン、三週目はリブアプールとヨーク、そして四週目には湖水地方を訪ねました。同じイギリスといっても、全く異なる街の雰囲気、様々なイギリスの表情が楽しめました。印象に残ったところを挙げれば本当にきりがありません。特に私は歴史が好きなため、歴史的に深い意味合いを持つ地に行けたことは大きな収穫となりました。特にヨークは「The history of York is the history of England.」という言葉が残されている地で、訪問を前から楽しみにしていました。中世に造られたという城壁を歩きながら古都の雰囲気を感じたり、英国最大のゴシック建築といわれるヨーク・ミンスター内部に入って数え切れないほどの枚数のステンドグラスに見入ったりしたことは、これからはずっと忘れないと思います。また、ヨーク・ミンスターでは小さなツアーに参加したのですが、様々な国から来た人とともに、歴史や哲学についてのお話を聞いたり、さらに自分も英語でガイドの方に話しかけたりして会話を楽しめました。

生活について

大学の寮に滞在しました。私は自宅生で、さらに今まで親元を一週間でさえも離れたことが無かったため、研修前からとても緊張していました。さらに、お風呂や食事など日本と勝手が違う部分があり、初めは戸惑いました。しかし、日を重ねるごとにそれらの違いにも慣れ、生活を楽しめるようになっていきました。フラットメイトの人は全員お茶大生だったのですが、本当に優しくて、気持ちが塞いだ時でもキッチンやラウンジに行くと皆とおしゃべりすると心が晴れました。毎日のようにスーパーで買い物をしましたが、店員さんを始め、マンチェスターの人々は皆大変親切でした。また私は英語で毎日日記を書くことにしていたのですが、読み返すとマンチェスターでの生活のことや自分自身の気持ちの変化がすぐにわかり、ライティングの練習にもなるのでお勧めしたいと思います。

最後に

帰国して改めて思うのは、この研修に思い切って参加して良かったということです。元々海外へ行くことには漠然とした憧れがありましたが、高校生までの私は「留学なんて自分には無理」と決めつけていました。そんな私がこの研修の参加を希望したのは、大学では積極的に挑戦することを通して新たな自分を見つけたい、自分をみつめたいという思いがあったからです。

もし、これから語学研修をするか迷っている方がいたら、ぜひ挑戦をすることを私は勧めます。そしてせっかく行くのだったら、積極的に人々とコミュニケーションをとって、行きたいところに行って、食べたい物を食べて…!?と最大限に楽しんで、充実した研修生活を送って下さい。私もこれからは、自分から物事を苦手と決めつけて終わりではなく、一歩踏み出して、自分の可能性を広げていけたらと思います。またこの研修でモチベーションが上がった英語学習を持続して頑張っていきたいです。

この研修に関わった全ての人々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

いました！



研修に参加した理由

私は一度も海外に行ったことがなく、大学生のうちに必ず行きたいと考えていました。さらに、大学生の夏休みは比較的時間に余裕がある時期なので、海外に旅行に行くのではなく実際に暮らすことで、より多くのことが得られるのではないかと思いました。また、中学生の時から英語を勉強してきましたが、試験で点が取れても実際に英語を使えるとはいえないということに気づきました。実際に海外の人と触れ合い、英語でコミュニケーションをとることは今後も英語を学習していくうえでよい経験になると考え、参加を決意しました。

研修プログラムの内容

月曜日から木曜日の授業は午前 2 コマ午後 1 コマあり、午前はレベル別でテキストに沿った授業、午後は英国文化について週ごとに与えられたテーマについて学びました。金曜日はその週の英国文化のテーマに関係のあるマンチェスター周辺の施設を訪れました。私のクラスははじめお茶大生 4 人と中国人 2 人、韓国人 1 人、スペイン人 1 人で、クラスメイトと拙い英語で話すのはとても難しいものの意義のあるものでした。しかし、一週間後に彼女たちは帰国してしまい、そのあとは日本人だけのクラスとなってしまいました。日本人が多い時期だそうで仕方がないことですが、多国籍なクラスを期待していたので残念でした。

寮は事前に伝えられていたのとは異なり、キッチン・バスルーム・ラウンジが共同の一人部屋でした。フラットメイトはお茶大生だけでしたので共同設備の使用に関してはほとんどストレスなく過ごすことができました。

研修を通して学んだこと

私がこの研修を通して学んだことは、大きくわけて 2 つあります。一つ目は、英語は日本語と同じようにコミュニケーションのツールだということです。学校や寮では国際交流する機会がなかなか得られなかったのですが、私は買い物をするときに店員に質問したり、夜はパブへ行くなどして英語で話す機会を増やしました。特にパブでは、何人もの現地の方と長く話すことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。現地の方々は、私が留学生だとわかると話の途中で私が理解できているか確認したり、簡単な表現で説明してくださいました。しかし、彼らの言うこと全ては理解できず、私が思ったことを伝えることができなかったのが、自分の英語力のなさを実感することにもなりました。二つ目は、世界はとても広いということです。パブで話した方のなかには、スコットランド出身の方もいらっしゃいました。帰国後すぐにスコットランドが独立するか否かという議論がありましたが、イギリスに研修に行っただけでなくスコットランド出身の方と交流したため、より身近に感じました。今までは国外のニュースは人事としか思っていなかったのが、大きな収穫だと思います。

今後にむけて

この研修を通して、英語を使えば異なる国の人々とコミュニケーションがとれることの素晴らしさを実感し、より英語を上達したいと考えるようになるとともに、世界の出来事に関心をもちました。今のところ長期留学は考えていませんが、旅行や就職先で使えるように英語の学習を続けていきたいと思っています。





私は今回の長期留学の準備として今回の短期研修に参加しました。長期留学をするにあたり海外で長期間生活をする経験をしたいと思い短期研修に応募しました。また、私は文化にも興味があったため伝統的で特殊な文化をもち様々な歴史的建造物があるイギリスを選びました。マンチェスター大学はとても伝統的で広大なキャンパスを持っていることやコアの授業である英語だけでなくイギリス文化について学ぶ授業を選択することが出来るというのがとても魅力的でした。さらにマンチェスター大学には寮があるため他の国からきている留学生と友達になりたいということもありマンチェスター大学を選びました。

大学ではコア授業としての英語とイギリス文化を学ぶ授業がありました。コアの英語の授業では日本人が苦手とするスピーキングとリスニングの授業を中心に行い、教科書をただ読むだけでなく楽しみながら英語を学ぶことができました。初日に行われるテストの結果によって細かくクラス分けされ、1クラス10人程度の少人数クラスでひとりひとりの希望や弱点に合わせて授業が構成され日本人が多かった私たちのクラスではスピーキングが中心となりました。さらに授業では自分の意見をしっかりと持ち、理由も含めてその意見を明確に伝えることが要求されました。このような機会は日本では少ないのでとても良い訓練になりました。さらに、クラスにはアジアや中東から多くの留学生が来ており毎日の授業や昼食、放課後の時間のなかで親しくなることができ、彼らとの交流することは英語の練習になるだけでなく異なる文化的背景を持つ人との意見交換は新たな発見をすることが多く将来海外で仕事がしたいと思っている私にとっては貴重な経験となりました。イギリス文化についての授業では週ごとにテーマを決め、水曜日はそのテーマについての調査や発表を行い、金曜日には博物館や図書館を訪れ見学しました。長い歴史のなかで多様な民族によって形成されたイギリス文化を学ぶことが出来とても楽しかったです。

大学寮の生活は日本人だけでしたがこれも貴重な経験となりました。地元のスーパーに行き買い物をするうちにイギリスの人々の暮らしが見え日本との様々な違いなど新しい発見が沢山ありました。日本のスーパーでは魚介類が豊富である一方イギリスのスーパーでは乳製品の種類がとても多くそれぞれの国の特産品や食の嗜好など知識としては知っていたことを実感できる場面が多々ありました。また、同じフラットの人と一緒に夕食を作ったり、パーティーを行うなかでとても親しくなることが出来ました。私は文系なので普段理系の学生とあまり交流をもつことはありませんがこの研修では理系や文系の他学科の仲間と意見交換をすることができ知見を広げることが出来ました。

さらに休日や平日の放課後には様々な場所を旅行しました。休日を利用してイギリス中の都市をいくつか旅行しました。ロンドンでは高校の歴史の授業で習ったようなとても有名な展示物を多く貯蔵している大英博物館やイギリスの歴史を感じさせるビッグベーンやウェストミンスター寺院、さらにイギリスを代表する映画ハリーポッターの撮影地などを巡りました。その他にもリヴァプールでビートルズのミュージアムに行きました。また、奴隷博物館で黒人奴隷貿易のなかで使用されていた道具を見てこのような悲惨なことが行われていたことに初めて現実味と恐怖を感じ、これからもこの悲惨な歴史を絶対に忘れず、繰り返してはならないと強く思いました。ピーターラビットの生まれた地である湖水地方ではピーターラビットのとても可愛い人形に出会うことができ、イギリスの自然を味わうことも出来ました。さらに平日の放課後にはマンチェスター中を散策しました。カレー屋が並ぶインド人街でカレーを食べたり、伝統的なティールームでアフタヌーンティーを楽しんだり、イギリス料理のレストランでパイを食べたことなどもとても思い出に残っています。イギリスはヴィンテージの洋服が有名なため沢山のヴィンテージの洋服店をまわることも出来ました。またイギリスには博物館や美術館が多くありそのほとんどが無料で入場することが出来るので沢山の博物館や美術館を見てイギリス、特にマンチェスターの歴史について学ぶことが出来ました。様々な場所を旅行するなかで道を尋ねたり、食事をする際に地元の人々と交流することはとてもよい英語の勉強になりました。実際に人々が話している英語は速度が速く、省略や訛りもあり授業の中で学ぶ英語と実際に使われている英語との違いに圧倒され自分の思っていることが伝えられないもどかしさを感じましたが、これからこの英語を理解し自分の思いを十分に表現できるようになろうというモチベーションにも繋がりました。また連休を利用してフランスにも行くことが出来ました。以前から行ってみたいと思っていたヴェルサイユ宮殿やモンサンミッシェルを見学し、当時の人々の生活の様子を学び、ルーブル美術館をはじめとする美術館で以前から好きだったフェルメールの絵画を見ました。ツアーの旅行ではなく自分たちで計画する旅行は困難なことも多々ありましたが積極性や計画性を身に着けることが出来た思い出に残る旅となりました。さらに私は第2外国語でフランス語を選択しているので実際にフランス語を使う機会を得ることが出来、フランス語の内容が分かった時や街で出会った人のフランス語が理解出来た時などは言語を習得することの重要性和喜びを改めて感じました。

今回の研修を通して英語力のなさを痛感し、日本での英語学習への意欲が高まりました。またイギリスで生活するなかでイギリスの文化についてだけでなくイギリスと比較することにより当たり前だと思っていた日本の文化についても学ぶことが出来、とても有意義な研修となりました。今回の研修のために協力してくださった全ての方に感謝したいと思います。

・研修に参加した動機

様々なことが初めての経験だった。海外に行ったこともなければ、両親とひと月以上離れたこともなかった。飛行機にすら初めて乗った。今まで自分は甘やかされて育ってきた自覚があった。英語学習はもちろん一番の目的ではあったが、独り立ちするいい機会かもしれない、というのも大きな理由のひとつだった。

・研修プログラムの内容

初回到クラス分けの試験があり、少人数のクラスに別れた。ふたつの授業コースがあった。ひとつは会話を中心に読み書きをする授業、もうひとつはマンチェスターの文化を学ぶ授業だった。3：1程度で前者の授業の方が多かったが、どちらもプレゼンテーションを行った。残念なことに私のクラスは日本人のみだったが、クラスによっては外国人と授業を受けていた。

読み書きの授業とは言っても、ほとんどが会話練習だった。テキストを使って文法学習をすることもあったが、その時間は少なかった。先生方は共通して「話せるようになることが一番有益だし、一番習得する近道になる」と強調なさっていた。絶え間なく話題をふってください、私が話そうとして言葉につまっても、辛抱強く私の話を聞き言葉を引き出してくださった。言葉を間違えることは恥ではなく、何よりも相手に伝えようと努力すること、また伝えようとしているという姿勢を示すことが重要なのだと学んだ。この点では学外の方も同様で、マンチェスターでも、ロンドンでも、ヨークでも笑顔で一生懸命に話しかけると、大抵の方はつたない英語でも質問に答えたり話をしてくださった。また先生方は、話をする・話を聞く振る舞いも教えてくださった。話をするときは声の音・テンションに高低をつけて相手の注意を惹き、身振り手振りを駆使して自分の話が伝わりやすくし、相手とアイコンタクトをとる。そこまでしなくては相手に伝わらず、話す以上相手に伝えなくてはいけない。

そして授業形態が日本では考えられないほど自由だったことも印象深い。外に出る授業が多かった。ある日の授業は、マンチェスターにある店等のだいたいの場所・特徴の書かれた紙を渡され、そこに行きそれについてプレゼンしなさいというものだった。二・三人ずつの少人数グループに分かれ店を回った。先生は途中まで案内してくださったが、だいたいは自力で回った。ほぼ初回の授業だったこともあり、大いに面食らった。地図を読もうにも道を尋ねようにもすべてが英語だ。またある日の授業は、音楽グループ・オアシスについて街行く人々にインタビューしなさいというものだった。大学通りに楽器店があるため、そこにインタビューしに行ってもいいかと先生に尋ねると、それはいい案だと喜んでくださった。楽器店でオアシスについて尋ねると、壁にかかっている、オアシスと同型のギター弾いてみるかと言ってくださり、クラスメイトの前で弾いたりすることもあった。どの授業も毎回新しい刺激があり、退屈しなかった。

・マンチェスターでの生活

マンチェスター大学の寮で生活していた。いわゆるシェアハウス形式で、個室で寝起きし、キッチン風呂トイレは共用だった。同じシェアハウスにはお茶大の人のみで、気が楽だった。食事は自炊だった。近くにスーパーも何件もあり、食材の購入には不自由しなかった。学生街だからかパブも多く、何度か行った。

毎週末旅行に行った。ロンドン、ヨーク、リバプール、湖水地方、いろいろなところに行った。泊りがけの旅行もあった。個人的には Sherlock Holmes Museum が最も印象に残っている。シャーロックホームズ、ハリーポッター、ピーターラビット。なんといってもイギリスはいろいろなものの本場だ。せっかくイギリスに行くのだから、できればお金を多めに持っていき、様々なところへ出向いて多くのことを体験できるようにしておくといいだろう。

授業が午後3時に終わり、イギリスの夏は日没が8時頃と遅いため、授業後に街を散歩することも多かった。少し歩けば、M&S、映画館、図書館に美術館・博物館など、行くべきところはたくさんある。

・研修を通して学んだこと

まず外国人と話が通じるようになる。発音が改善されたこともあるだろうが、自分の知っている単語・言い回しで相手に伝わるように話す力が向上したのだろう。毎日英語で会話をしなければならぬ。相手に話を伝えようとする積極性が増したのだとも感じる。

積極的に人に話す中で、自分がそれまでいかに間違えることを恐れていたのかを痛感した。この積極性は日本人生徒よりも外国人生徒の方が強い。日本人は最後まで先生の話聞き、質問もあまりしない。しかし外国人は先生の話が途中であっても疑問を感じると瞬時に質問する。自分の行きている世界（日本）はあくまで世界のひとつでしかないのだとも知った。



私がこの研修に参加したいちばんの動機は英語を話すことへの抵抗を減らしたいからである。以前子供向けの海外アニメにはまってから、一度英語のみの環境に身を置いてみたいと思っていたということもあり、この研修に興味を持った。またマンチェスター大学には様々な国籍の生徒たちがいるため、イギリスだけでなく多くの異文化に触れることができるのではないかという考えもあり、この研修を選んだ。

サマープログラムでは、初日にテストを受けレベル別の授業を受けた。授業はコアとターゲットモジュールに分かれており、コアでは文法などを中心に、ターゲットモジュールではイギリス文化について学んだ。歌や映画、短い物語を使った授業のほか、教室の中だけに留まらず学校の重要な建築物や像へ実際に足を運んでの調べ学習、博物館体験などの課外授業もあり様々な方法で英語を学んだ。調べ学習もただ調べて終わりではなく、ディスカッションしたりプレゼンテーションで発表するなど自分の意見や感想が必要とされる授業が多く、特に英語を話すことに慣れていなかったはじめのころは緊張してしまいがちだったが、最終的には英語でのやりとりを楽しく感じるようになった。特に先生と話すのは楽しかった。

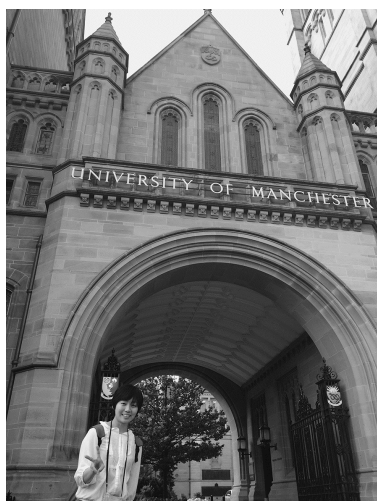
また、異文化を身近に感じられたことも良かった。上に書いた通りマンチェスター大学は非常に多国籍な大学であり、私のクラスは中国・韓国の生徒やアラブ・イラクの生徒と一緒に授業を受けることがあったため、イギリスだけでなく他の国の人たちとも交流できた。彼らと話して、自分が今まで普通だと思っていたことが他の国ではそうではないのだと改めて実感した。彼らと私たち日本人ではしがちな表現や発音が違い相手の言いたいことを勘違いしてしまったり、アラブの女の子おすすめのアラブ料理を食べてみたら恐ろしくこしょうがきいておりものすごい辛かったりなど感覚の違いにとまどいを覚えることもあったが、全ていい思い出となっている。

私にとって、この研修がはじめての海外経験であった。日本とは向きが違う歩行者用の信号や日本のものより種類の多い硬貨、ほぼ毎日見かけるケサランパラサン、何重にも設置されている防火扉など面白いものは多く、ただ道を歩いているだけでも新たな発見があり楽しかった。

研修に行くまでは不安もあり、研修が終わった今では心配しすぎだったなと思うくらいだったが、研修が始まってからは今までになく本当に充実した日々を過ごせた。この5週間を通してたくさんの貴重な体験をすることができ、この研修に参加して本当に良かったと思っている。しかし英語だけでなく日本に関することについて自分の不勉強さも感じたため、今後は視野を広げ幅広く学んでいきたい。



「留学をするのは、少し自分にはレベルが高いかもしれない」「日本語が伝わらない国に行って実際にコミュニケーションをとるのは難しいだろうな」現在、日本人留学生が少ないことが問題となっており、大学をはじめ国もたくさんのプログラムやシステムを導入しています。しかし、実際の大学生の心の中は、といえは最初にしたような「不安」がいっぱいなのではないかと思います。実際に財政面の問題を抱えている人が多い、というよりはこのような不安を払しょくしきれない人が多いでしょう。



私の唯一の取り柄は「何事もチャレンジしてみること」です。入学した時に、留学のプログラムが充実しているということを聞いて、「留学にチャレンジしてみよう」と決めたことが、今回の留学のきっかけになりました。けれども、実際に申し込んだ後には不安になることも多かったです。そのような中で私を支えてくれたのは、連絡を取り合って疑問を解決し合った、一緒にマンチェスター大学に留学した学年学部様々なお茶大生のみなさんや、留学のためにたくさんの資料作成や説明、時には相談にのってくださった先生方でした。

マンチェスター大学の 1 か月の授業では、大きくコア英語とイギリス文化のクラスを受講することができました。

最初のプレイスメントテストでクラス分けされたコア英語のクラスでは、ネイティブのチューターさんを中心に教科書を使いながら英語で授業を受けたり、洋画を見てディスカッションをしたり、ゲームをしたり、フィールドワークを行った後にプレゼンテーションをしたりしました。その中でも印象に残っていることが大きく 2 つあります。1 つ目は、英語でプレゼンテーションをするのが予想以上に難しかったことです。グループの人と協力しながらスライドを作る時点で、国によってスライドの作り方が異なり、1 つのプレゼンを作り上げることが大変で、また日本では私は原稿を読みながら発表をしているのですが、実際には原稿を作ることはなく、ジェスチャーを用いたり、聞いている人とコミュニケーションをとったりしながら発表をすることが求められていました。研修中には 3 回ほどプレゼンをする機会がありましたが、その 1 つ 1 つの機会を大切にして準備を行い、最後のプレゼンでは多少は直さなければいけないポイントがあったものの、プレゼン力が向上したように思いました。2 つ目は、クラスになじむことができず、教科書の内容も理解できていなくて、発言が最初のうちはあまりできなかったことです。自分の知らない単語が多かったり、なんと発言したらよいかわからなかったりしていたからです。そんな状況を打開するために私は授業が終わって寮に戻った後に、復習や予習を徹底して行うようにしました。私ほど、授業の準備に時間をかけていた留学生もいなかったように思いますが、そのおかげで半分を過ぎたころには発言の回数も増え、クラスメイトともコミュニケーション

ンをとることができたり、テストでよい得点をとることができたりするようになり、充実した学習をすることができたように思います。

また、イギリス文化のクラスでは毎週マンチェスター内の博物館や図書館に行ったり、イギリスの産業や音楽などについてディスカッションをしたりしました。お茶大生の覆いクラスではありましたが、英語を積極的に使って授業に臨むことができたと思います。この授業の中でも大きく2つ印象に残っていることがあります。1つは、発音をよく注意していただいたことです。今まで自分が使っていた発音が実際にネイティブの人に対して使うと間違っていたということがわかり、日本人と英語で話す中ではわからない、自分が直さなければならないことが明確になりました。2つ目は、プレゼンテーションについて詳しく、フィードバックをしていただくことができたことです。2回にわたるプレゼンの中で私が注意されたのは、話している時の目線や、原稿をどれだけ覚えるか、ジェスチャーをなるべく取り入れること、そして聞いている人に興味を持ってもらうこと、たくさんありました。1回目より2回目がよくなるように、自分の部屋に帰った後にひたすら発音の練習をしたり、数分の発表を繰り返し繰り返し練習したりして、本番に臨むことで、コア英語の授業と同様に、自分の力が伸びているように感じました。



休みの日には、バスや電車のチケットを自分たちでとって旅行に出かけたり、大学側が主催する旅行に参加したり、また一人でカフェに行って店員さんと会話をする機会を増やしたりすることができました。

今回の留学は英語を学ぶだけではなく、プレゼンの力や英語でコミュニケーションをとろうとする積極性など様々なことを学ぶことができました。実際に英語圏に行って会話をする大切さを感じましたが、日本に帰っても大学の充実した英語教育システムを使うことでまだまだ私の英語力を伸ばすことができるように思います。これからは、文法や単語を覚えたり、ひたすら黙って机の上で文章を書いたりするだけではなく、実際に使えるようなスピーキング力を伸ばしていければいいなと考えています。

最後になりましたが、1か月の生活の中で様々なことを一緒に経験し、いつも支えてくれたマンチェスター大学短期留学に行ったお茶大生の皆さん、留学のための様々な手続きをしていただき、時には相談にもものっていただいたお茶大の先生方、そして費用を工面してくれた家族に感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。

研修に参加した動機

英語をコミュニケーションの手段として使えるようになりたい、その中でもリスニングとスピーキング力を向上させたいと思っていました。また、日本ではない場所で、見知らぬ人ばかりの中、自分の力で生活する力を身に付けたいという思いから留学を決意しました。他のプログラムも魅力的でしたが、イギリス英語を聞き取れるようになり、イギリス文化に触れたかったので、マンチェスターでの研修に参加しました。



研修プログラムの内容

日々の授業は、午前と午後の授業に分かれていました。午前の授業では、レベル別にクラスが分かれており、私のクラスでは、スピーキングの練習をするために、トピックについて積極的に話すということが求められました。トピックも日常的なことやイギリスの文化を交えたもので、日常的な会話をできるようになりたいという目標を持っていた私にとっては、とてもためになるものでした。日本人だけのクラスだったこともあり、文法よりも会話をするということに重点を置いて授業を展開してくださいました。また、合同授業では、外国人もいる授業で刺激を受けることができました。校外に出て、現地の人と話す実践的な授業やプレゼンテーションなど、生徒の要望に合わせて柔軟に授業を展開してください、毎日とても楽しく授業に臨むことができました。午後の授業は target module でイギリス文化について学ぶ授業でした。スポーツや産業について学び、毎週金曜日にその週のトピックと関係のある博物館や図書館を巡りました。自分では行かないような場所を巡ることができ、貴重な体験をすることができました。博物館は日本と異なり、入場無料のところが多く、また撮影可能なところがほとんどだったことに驚きました。

大学寮での体験

寮はお茶大生だけのフラットでした。日本人だけというのは、せっかくの留学なのに少し残念だとも感じましたが、海外が初めての私にとって少し安心感を得ることができました。同じフラットのメンバーと一緒に夕食を作ることもあり、楽しい生活を送ることができました。8人で1つのフラットとなっており、自分の部屋もあるので、勉強などプライベートな空間がきちんと確保されていました。

週末

マンチェスター研修中、4回の週末がありました。この休日を有効に使うために毎週アクティブにロンドンや湖水地方等、様々なところに足を運びました。旅行先では、電車が途中で止まったり、バスが1時間以上も遅延したりと日本ではあまり起こらないようなことにたくさん遭遇しました。それに対処するために現地の人々と話すということを通して、ネイティブのスピードで英語を聞いたりナチュラルイングリッシュを知ることができて、実践経験となり面白かったです。トラブルを楽しむようになったということがこの数々の旅行を通しての成長だと感じます。



研修を通して学んだこと

積極的に自分から発言すること、そして自分の意見に対して「どうしてそう思うのか」ということを論理的に説明することの重要性を特に感じた研修でした。授業でも、意見を求められる場面が多々あり、自分も常に発言しようという姿勢とそうでないのとは大きく学びの量や質が異なると感じました。文法が完璧でなくても、自分の考えていることを伝えることのできた人が勝ちです。そうでなければ、意見を持っていないことと同じだからです。初めは、頭の中で文章を組み立ててから話していたため、途切れ途切れでしか話すことができませんでした。しかし、話すことの重要性に気づいてからは文法にとらわれ過ぎずに会話をするように心がけました。そうすると、担任の先生から、マンチェスターに来たばかりのころに比べて格段に流暢に話せていると言ってもらえたのがとてもうれしかったです。

日本人以外の人と話していると、「どうしてそう考えるの」とよく質問されたことが印象的でした。語彙力やスピーキングの問題ばかりでなく、知識不足から明確に質問に答えることができない場面があり、悔しい思いをすることがありました。このことから、普段から自分の考えることに対して明確な意見を持ち、論理的に思考できるようにするために知識を増やしていきたいと強く思うようになり、分からないことは恥ずかしがらずに聞き、積極的に調べることができるようになりました。

また、外国へ行ってみることで、改めて日本の良さに気付くことがあり、日本での当たり前は世界では当たり前でないということに気付くことができたことも良い経験だったと思います。

研修参加前は、一度留学できればいいと思っていましたが、周りの学生の意識の高さを目の当たりにし、また、先生との距離の近さ等、学習環境の良さを感じたので、長期留学をしてみたいと考えるようになりました。



8月3日から9月6日までの約1か月間、マンチェスター大学での語学研修に参加しました。語学力を向上させることと英国文化を学ぶことを目的に参加を決めた研修でした



が、イギリスでの生活を実際に肌で感じたことは予想以上に大きな経験になりました。研修期間を通して私が感じたことをここに述べたいと思います。

授業では、リーディングやライティングといったものや文法を学んだほか、ディスカッションをしたり、海外のドラマや映画を見たり、マンチェスターにある施設を実際に訪れてその施設や展示品などについてプレゼンテーションをしたりしました。スピーキングに苦手意識があり、初めは自分から発言することをためらっていましたが、ジョークを言って笑わせてくれる気さくな先生や、自分から積極的に発言しようとするクラスの皆を見て、すぐにリラックスして授業に臨むことができました。同じクラスの中国や韓国の女の子が、自分は英語を話すことが苦手だと言っていたのですが、実際は英語でどんどん自分の意見を発表していました。自分の意見を伝える前から英語を使うことを不安に感じていた自分を恥ずかしく思い、同時に、私も英語を使って自分の意見を言いたいと強く感じ、よい刺激を受けました。また、リビアの男性と一緒にプレゼンテーションをしたとき、彼はいつもジョークを言って、聞き手を楽しませながらプレゼンテーションをしていました。その姿を見て、単に英語の文法や単語を覚えるだけではなく、相手との言葉のキャッチボールを楽しく交わすことができてはじめて、英語でコミュニケーションをとることができるかといえるのかもしれないと思いました。自分の専攻として、さらには、コミュニケーションの手段としての英語にますます興味が湧きました。同時に、自分のレベルや克服すべき課題も見え、帰国後の勉強に役立てていきたいと感じました。

授業中、先生から聞かれた質問に答えると、「なぜそう思うのか」とさらに理由を聞かれて戸惑うことが多々ありました。中でも印象的だったのが日本についての質問です。

「日本人が遅くまで働くのはなぜか」、「日本人は英語教育を受けているのになぜ英語を話すのが苦手なのか」、「日本は進んだ技術を持っているのに、授業ではいまだに黒板とチョークを使っているのはなぜか」など、日本では当たり前のことが海外から見ると非常に奇妙に映るのだと改めて感じました。同時に、外国の方が日本に対して抱くステレオタイプのイメージも知ることができて面白かったです。私は日本のルールのを全てを海外と同じようにするべきだとは思いませんが、このような質問を受けて、日本での「当たり前」が世界でも同じとは限らないと自覚することは、たとえ些細な出来事でも、互いの文化の違いを理解するために不可欠であると感じました。先生やほかの国の留学生

と一緒に自分の国の文化を話していると、むしろ互いに違うことこそが当たり前であり、また、その違いを理解した上で歩み寄っていくことが重要だと感じました。マンチェスター大学での授業と比較すると、日本の教育では、「なぜ？」を問いかけることはあまりなく、自分で問いかけることも少なかったため、とても新鮮でした。この経験によって、普段から少しでも気になることがあったときに「なぜそうなのか」を考えて、自分の思考力を養うことを習慣づけたいと思うようになりました。

研修中は授業だけでなく休日にも充実した日々を送ることができました。放課後や週末などの授業がないときは、留学生やお茶大の皆で買い物や旅行に出かけました。ロンドンやオクスフォード、湖水地方といった国内の様々な場所を訪れ、イギリスの食や建造物、風景を満喫しました。実際にイギリスに住む人々と会話する機会が一番多かったのがこのときで、買い物をしたり、列車やバス、ホテルの予約をしたりするときなど、積極的に現地の人に話しかけることを心がけました。現地の人びとは皆親切で、私の質問に快く応じてくれました。旅の途中でトラブルに見舞われることもありましたが、皆で協力しながら英語で旅の手配をしたりトラブルを対処したりしたことが、留学前よりも確実に自分を大きく成長させたと感じ、自信に繋がりました。



研修の最終週は、クラス合同でお別れ会をしました。お菓子や自分の国の食べ物を持ち寄っておしゃべりを楽しんだり、一緒にカラオケパーティーをしたりと楽しい会になりました。別れは名残惜しかったけれど、今でも交流が続けられているのは幸せなことだと感じています。

1 か月という短期研修を有意義なものにするには、気候や文化、政治や経済情報など、留学に行く国の知識を蓄えておくことはもちろん、自分の国についても勉強しておく必要があると感じました。外国の方から日本の宗教や教育などについて質問されたとき、自分がいかに日本について知らないことが多いか気づかされます。月並みな考えですが、今回の留学で、外国だけでなく自分が住む日本についても見つめ直したいと思いました。また、この研修で、英語は様々な国の人を結びつける手段であると身を以て知りました。1 か月はあっという間でしたが、この経験は今後の私の生活を実際に変えたと思います。

About my experience in Manchester

文教育学部言語文化学科 3 年

森戸 千浩

Now, I could finish my five week English program. I could gain a lot of precious things through my experience in Manchester. To be honest, I am not sure my English is correct, but I will try to write my report in English.

1. About my study course

This was the summer program, so there were many Japanese students in Manchester University. However, in my class, there were some foreign students, so I could make some foreign friends. All of them are highly motivated students. One day, when I spoke Japanese with Japanese students in a break time, my classmate said 'Don't speak Japanese.' Firstly, I was surprised and I thought he was so strict. After that, he told me that he was worried about Japanese students because he thought they have less opportunity to speak English. I noticed that he is very kind. Actually, my foreign friends, including him have different situations from me, for example they will stay in Britain more than one year, or they study English for their job or family. Nevertheless, they always paid attention to me. So, I could make an effort with them.



2. About daily life

My dormitory is same with only Ohanomizu University's students. I could stay relax and there were no troubles. However, if I didn't search any opportunity to talk in English, there would be no meaning to study abroad. So, I decided to communicate with many people. In some weekend, I went out alone and talked to the British to gather some information about Manchester. The British are very kind and friendly, so if I asked some trivial things, they answered kindly. And also, I went to dinner with my foreign friends. Maybe foreign students also want to improve their English skills. Through dinner, we

could make friendship and improve English.

3. What I changed through my experience

In the first week, I was a shy student, so I always stayed with Japanese students and spoke Japanese. However, I noticed it was waste of time even though I paid expensive money. So, I changed my characteristics. I decided that I did everything to get a chance to improve my English skills. I talked a lot with foreigners and studied a lot. I could be an active girl. If I talk to my family about my change, everyone would be surprised. I thought if I strongly think I want to change, I can change myself. It's the biggest thing I found.

4. Conclusion

I don't know who reads my reports, but I have one thing to tell someone who wants to try to join short-term program. Actually, you wouldn't be able to improve your English skill only by joining short-term program. You can speak Japanese and you can have a nice weekend with your Japanese friends. However, I want you to think whether it is good for you. The short-term program will be over before you know it. So, you should use every chance to speak English. Sometimes, you may have to make chances by yourself. If you can think your goal, you can get many things from the program.



In closing, without global education center's help, especially Ms. Watanabe, I couldn't have nice days. So, I thank them from the bottom of my heart. Thank you very much.

夏休みに行われたマンチェスター大学への短期研修に参加してきました。この研修に参加すると決めた理由は、英語のリスニングとスピーキングの力を向上させるためでした。英語しかない環境の中で生活することで、英語で会話できるようになればいいなと思っていました。そう臨んで参加した研修でしたが、期待以上のものを得られました。語学力向上はもちろんのことそれ以外にも初めてみる景色、日本ではしたことのない体験、マンチェスターに住む人の優しさ、私が知らなかった世界など多くのことを知ったり体験したりすることができました。

多くのこと得たこの研修の中で、特に心に残ったことが2つあります。それは「誰かと会話をするだけなら簡単な英語で十分であること」と「遠くはなれた地に住んでいる人も日本にいる人ととくにかわりのない人であること」です。

マンチェスターの人々はとてもフレンドリーで、バス停でバスを待っている時や公園で一休みしている時などによく話しかけてくれました。最初はあやしい人なのではないかと疑いましたが、数回話しかけられるうちに本当にただ暇だからちょっと誰かと話したかっただけみたいだと感じました。どこからきたの、何を学んでいるの、マンチェスターは楽しい？、フィッシュアンドチップスっておいしいと思う？という会話を楽しむことができました。文法的に少し間違った英語だったとしても話し手の表情やジェスチャーで言いたいことは伝わりました。会話をするのは確かに簡単な英語で十分でした。けれど、話の内容を豊かにするにはかなりの努力が必要だと感じました。社会の問題について自分の意見を述べたい、とある連立方程式の解き方について説明したいと思ったら、単語や表現をしらなければなりません。今後研究のため英語の論文を読む機会が増えるはずですが、さらなる自学が必要だと思い知らされました。

イギリスの文化は日本と全く違うもので戸惑うことはたくさんありました。食生活も話す言葉も常識も違いましたが、人が生きるために必要な衣食住が存在してみんなそれぞれ自分の生活を送っていました。すこしでも楽しく生きるため、幸せにすごすために動いていました。それは日本にいる人と全くかわりませんでした。見た目やバックグラウンドが見慣れている黒髪黒目の日本人とは違っても同じ人間なのだと思うと少し抱いていた恐怖感がなくなりました。異国の地で5週間落ち着いてすごせたのはこの考えをもったおかげなのかなと思いました。

この研修に参加させていただいて、本当にたくさんのことを得ることができました。飛行機がマンチェスターに着陸するときのわくわく感、全部英語で行われる授業、よく通ったカフェの店員さん、みたことのない日本食もどきを売っていたスーパー、マンチェスターの劇場で観た舞台、日本へ帰るときのさびしさと少しのうれしさなど、忘れられない思い出がたくさんできました。この研修に参加して心からよかったと思いました。

My stay in Manchester

文教育学部人間社会科学科 1 年

本橋美里

私がこの短期研修に参加した動機は、以前から海外の学校で学ぶという経験をしてみたいと考えていたからだ。今後の大学生活を考えるために、一年生の夏休みに参加できて良かったと感じている。

〈研修の目標〉

この研修に参加するにあたって私は二つの目標を据えていた。一つ目は、様々なことに対する視野を広げることだ。同世代の留学生たちとの交流を通じて多様な話題について英語で対話し、異文化や異なる価値観に触れたいと思っていた。二つ目は、実践を通して自分の英語力を磨くことだ。研修先にマンチェスターを選んだ理由は、歴史ある経済・文化の中心地であり、学生も多い活気溢れる街であるからである。イギリスの、そしてマンチェスターの文化を学びながら生きた英語に触れようというのが私の目標だった。



〈研修内容〉

平日は毎日授業があった。授業は Core Module と Target Module の二つのパートからなっていた。Core では、様々なテーマを扱いながら英文法やプレゼン、ディスカッション等を学んだ。アカデミックな英語のスキルを向上することが目的の授業だった。Target では British Culture を学んだ。毎週一つのテーマのもとに学び、金曜日にはマンチェスター市内にある博物館や図書館に見学に行った。

また、先生方が様々な話題を提供してくれるので、授業の中でイギリスの文化を知ったりイギリスと日本との違いを学んだりすることもできた。一番印象的だった話は、イギリスの階級社会について先生と議論したことだ。イギリスで生活しているイギリス人が生身に感じていることを聴くことが出来た。このように現地の人の感じていることを聴けるのは留学ならではの貴重な機会だと思う。

〈寮生活〉

一つのフラットにお茶大生 8 人が暮らした。キッチンとお風呂、ラウンジが共用だった。外国人留学生との共同生活を期待していたが、日本人同士の生活は安心感があったし、毎日が楽しかったので満足している。

〈マンチェスターの街〉

マンチェスターは multicultural な街で、街中にアラブ系、インド系など多様な民族の人

がいた。大学のキャンパスを縦断している Oxford Road にはハラル食のレストラン、Vegetarian Café などがあったのが印象的だった。また、マンチェスターで一番評判のティールームはゲイヴィレッジにあったのだが、そこに何度か行ったことも楽しかった思い出である。

〈学んだこと〉

研修後に自覚した変化は、英語を話すということに対して自分が構えなくなったことだ。日本人は英会話が苦手だと言われるが、私も渡航前は例外ではなかった。しかし、英語圏で生活し、英語のコミュニケーションを繰り返すうちに、決して流暢ではないが自然に英語を話せるようになったと思う。この成長を維持しさらに向上するべく意識的に英語を話す機会を持とうと思う。

また、毎日の大学の授業がとても充実していた。英語を磨くだけでなく英語で学ぶということがとても楽しかった。他の国の留学生とともに授業を受けてみて一番感じたのは、自分の英語力・発言力の未熟さである。皆は正解を探すことより自分の意見を発信しようという姿勢で積極的に授業に参加していた。私は自信がない内容は発言を躊躇してしまったり、伝えようとしても考えをすべてきちんと伝えることが出来ず、もどかしい思いをした。今後は自分の意見を持つことを意識し、英語で自分の考えを述べる練習なども重ねていきたい。

終わってみると、想像していた以上にあっという間の5週間だった。今回の経験は今後の人生に必ず活きると思う。イギリスで感じたいろいろな思いを忘れずに、マンチェスターで出会った人々のように志を高く持って生きたいと思う。



自分で飛び込む 自分で挑戦するということ

理学部情報科二年

山本百合

「どうして私は英語を勉強するのか」

大学一年生の時、この疑問に打ち当たり、それ以降私は海外に留学したいという気持ちを抱き続けていました。「いつか将来、役に立つ日が来るから」と、高校時代より受動的に英語を勉強してきた自らの姿勢に疑問を感じたのが発端です。目の前の試験の点数のためだけでなく、主体的に英語に取り組めるようになりたいと思いました。海外を訪れ、英語圏での暮らしの中で、英語を学べれば、英語に対する姿勢をより納得のいく形に変えることができるのではないかと。そのように考え、留学を志しました。また海外経験の無い私にとって、日本以外の文化に触れることは文化をより意識するきっかけになりそうだったことも志望の一つです。この語学研修はそのような英語や文化に対する姿勢を見つめ直すめったにないチャンスだと感じました。

研修が始まり、実際にイギリスを訪れてから数日経った頃、私は少しだけショックを受けていました。理由は、イギリスでの生活が日本での生活とさほど変わらないように感じたからです。寮は1人部屋で、フラットには同じお茶大生が住み、授業のクラスも日本人が多いクラスだったからかもしれません。そこで私は、最初の週末に、思い切ってロンドンに行く計画を立てました。早いうちに冒険しようと思ったからです。後で思い返してみても、この判断は正解だったと思います。ロンドンへ向かう旅路の中で、イギリス人に道を聞いたり、コミュニケーションをとったりして、英語が伝わる楽しさを感じました。どの人もやさしく質問の返事を返してくれるので、楽しみながらロンドンを散策しました。苦労することもありましたが、本当に楽しい週末を過ごせたように思います。

不思議なことに、一度英語を喋ることに慣れてくるとどんどん英語を喋りたくなるものです。ロンドンから帰ってきた後の授業では、積極的に先生に話題を振ることが増え、英語を喋ろうという気持ちが強まりました。また、先生が授業を通して、学生に英語をもっと積極的に喋る機会を与えてくださったことも、大きな経験となりました。例えば、大学の外でマンチェスターに関して調査をするような課外授業や、学生の得意なことについて、自由なテーマでプレゼンテーションを作る課題を設けてくださいました。全体的に自由度は高いものの、学生が英語に対してより積極性を持てるような教育の工夫がされていたので、自然と英語に主体的な姿勢で取り組みました。

特にプレゼンテーションを作成する授業では、私はサークル活動で日々練習しているマジックについてデモンストレーションを行いつつ、プレゼンテーションをしました。英語でマジックを演じることは想像以上に大変でした。時々、適切な英語表現が思いつかず、無言のまま演じてしまうことがあり、自分の英語力不足を痛感し、悔しい思いをしました。それでも、精一杯ボディランゲージを使うことでなんとか伝えることができ、最後にはクラスメイトや先生がショーを楽しんでくれたので本当に嬉しかったです。特に Carol 先生は、何度も「あなたのマジックは素晴らしいし、英語も分かりやすいから、もっといろいろな人に見せてマジックも英語も上達させなさい」と声をかけてくださったので、自信に繋

がりました。

他にも、イギリス滞在中、私はいろんなことにチャレンジしてみました。お芝居やマジックショーを見に行ったり、ビリヤードや映画館に行ったりするなど、現地の人が日常的に楽しむエンターテインメントにもトライしてみました。特にお芝居や映画では、早口で台詞が語られてしまうため、内容が分からないことが多かったです。でも、登場人物の表情や客席の反応を見て、ストーリーを理解していくなかで、自分が今まで日本で触れられなかった生きた英語を楽しむことが出来たように思います。

今回の研修を経て、私はチャレンジすること、自分を新しい環境に投げ込んでみることの重要性を知りました。私がこの研修で得たものひとつひとつが、勇気を出してチャレンジしたものです。億劫だからといってチャレンジしなかったら決して得られなかったと思います。イギリスで英語を学びつつ、様々な人と関わり、様々なことにチャレンジすることで、自分の視野や日本での自分の生活に対する考えが広がったように思います。英語や違う文化圏の考え方に対しては勿論、日本にある様々なことに対しても、もっとチャレンジしようと思いました。

今回、この研修に参加したことで、たくさんのことを学びました。携わってくださった方々に感謝しております。ありがとうございました。



● 留学を決めた理由



大学生になったら留学がしたい。受験生の頃からのその思いから、1年生の時友人と共に短期語学研修の説明会に行きました。残念ながら金銭的にその年に行くことは難しかったのですが、1年半アルバイトを通してお金を貯め、ようやく今回念願の海外留学に参加することが出来ました。行先をマンチェスターに決めた理由は2つあります。1つはイギリスの文化やイギリスを舞台にした映画が好きであること。ハリーポッターをはじめメリーポピンズ、タイタニック、不思議の国のアリスなど、イギリスを舞台にした作品には幼いころから大好きなものがた

くさんありました。2つめは寮であるということ。寮かホームステイかは難しい選択ではありましたが、同じような世代の留学生と交流を持てること、そして私は関東圏に住んでいるため、ここで一人暮らしをしなければ一人暮らしの経験をしないまま結婚して家庭に入ってしまうこともあり得るのでは・・・と思い、寮に決めました。

● 海外での生活

今回の留学は私にとって初めての海外でもありました。そのためイギリスに着くと、見るものすべてが新しく外に出るだけでわくわくしました。まず、何といっても街並みがきれいです。彫刻の施された古い建物がたくさん並び、なんとも歴史を感じさせてくれる風景に、自分は今海外にいるのだということを実感させられました。他にも、スーパーに並んだ日本とは違った食材に驚き、2階建てのバスには大興奮でした。イギリス人は親切な人ばかりで、道に迷った時や、買い物で硬貨の扱いに慣れていなかった時でも丁寧に教えてくれました。また、向こうから積極的に話しかけてくれることも多く、嬉しかったです。日本では、外国人が道に迷っていたり困っていたりしても、「私英語は話せないから・・・」と何となく敬遠してしまう人が多いですが、これからは積極的に話しかけて助けてあげられるようになりたいと感じました。また、寮での生活は思ったよりも快適でした。というのは、同じフラットが皆お茶大生だったのです。文化の違いにぶつかることなく、安心して過ごすことはできましたが、英語の上達という面からみると、少し残念だったかなと思います。しかし、食事に関しては、友人が近くにいたことは大きかったと思います。イギリスでの食材は量が多く1人では使い切るのが大変だということ、出来合いの食品は正直あまり美味しくないということ、そして節約もかねて、



夕飯は友人と3人で一緒に料理をしていました。バランスの取れた食事を摂る事ができたうえ、今となってはいい思い出になっています。

● 英語の授業

英語の授業には、通常の授業のように教科書を用いて英語の勉強をする Core English と、Target Module がありました。Target Module では私たちは British Culture を学びました。Core English ではスピーキングが中心で、各トピックに対してペアやグループでディスカッションをしたり、プレゼンテーションをしたりしました。まず感じたことは、日本人同士で英語を話すことと、外国人と英語を話すことは全く別物だということです。お茶大の授業でもスピーキングはたくさん行ってきましたが、その時は日本人同士何となく言っていることが通じていました。しかし、持っている知識やバックグラウンドが違う外国人と、映画やアニメ、食事などについて話す際には、そのものの呼び方が違っていたり、そもそも文化的な生活習慣の違っていたり、思うように話が進まないことが多くありました。また、よく言われていることですが、「日本人は、文法は得意だがスピーキングは苦手」ということを肌で感じさせられました。リビア人、サウジアラビア人とグループでプレゼンテーションのパワーポイントを作っていたとき、彼女たちが文法やスペルが間違いだらけの資料を作っていくことに驚きました。しかし、スピーキング力は彼女たちの方が確実に上なのです。私はスペルや文法のミスを直していくばかりで、先生に積極的に意見を聞いたり、ましてや冗談を言い合ったりなんてできず、「もっと話すことが出来るようになりたい。」と強く思いました。次に Target Module では、週ごとにトピックがあり、イギリスのスポーツや歴史などについて学びました。このクラスでは、毎週金曜日には外に出て、フットボールミュージアムや歴史博物館、科学博物館や図書館など、その週のトピックに合わせた場所へ出かけて学びました。マンチェスター内の様々な場所を巡ることができ、いい経験になり、毎週楽しみにしていました。特に、図書館の中にはハリーポッターのモデルになった場所もあり、とてもきれいでした。

● 週末の過ごし方

週末には毎週様々な場所へ出かけました。ロンドン、ヨーク、リバプール、オクスフォード、湖水地方、マンチェスターユナイテッドのツアー、ハリーポッターのスタジオツアーと、日本では考えられないくらい行動的に過ごしました。イギリスでは勉強と休暇のメリハリがはっきりとしているので、先生たちも週末には宿題を出しません。そのため思い切り週末を満喫することができました。週末に旅行をするメリットは、観光だけではなく、英語を話す絶好の機会にもなるということです。ツアーに参加するわけではないので、自分たちで場所を決めて、自分たちで往復のチケットをとって、自分たちで地下鉄を探して乗って、自分たちでタクシーを拾って、道が分からなくなれば質問して、時には自分たちで宿を探して・・・これらを全て英語で行います。時にはハプニングもあり不安になったこともありましたが、より実践的な英語が身についたのではと思います。



- 最後に

この短期研修は、私にとって英語の上達だけでなく、自分から行動するきっかけや、沢山の人々との出会いを与えてくれたとても意味のあるものになりました。辛いことも楽しいことも、たくさんのことを経験して、10代最後の夏休みを最高に思い出に残るものにできたと思います。ありがとうございました。

・研修に参加した理由

私がマンチェスター大学短期語学研修に参加した大きな目的は、語学力の向上です。大実際に英語圏でリスニングやスピーキングを学べるこのプログラムに魅力を感じました。また、長期の交換留学に興味があり、本格的に計画を立てる前に海外留学の経験をしてみたいと考え、参加を決めました。

・研修を通して学んだこと

マンチェスター大学では、週に 15 コマの英語の授業を受けました。英語で英語の文法を勉強するのは初めての経験でしたが、単語による微細な意味の違いなどは、とても勉強になりました。研修中にはライティングのテストもあり、語学試験と似た条件でエッセイを書き、先生に添削していただくことができました。テストの後にひとりひとりの書いた文章からいくつか先生が文を選び、クラス全体で話し合いながらより良いものに書き直していくという作業もライティングの技術の向上にとっても役立つものであったと感じています。このように授業の学習内容も大変有意義なものでしたが、私が最も衝撃を受けたのは、授業の雰囲気でした。途中でメンバーの入れ替わりもありましたが、このクラスの参加者は半分以上が日本以外の国からの留学生でした。全て私よりも年上の方たちで、出身国は多様でした。留学の理由も語学試験のスコアの向上やマンチェスター大学での学位の取得など、人によって様々でした。長期の留学のプログラムの一環として受講している方も多かったようです。実際に現地に来るまで参加者の多くは大学生であると思っていたので、留学のかたちは人それぞれであるということに驚きました。留学生の方々は授業に対してとても意欲的で、授業中は、ときには先生が静止するほど質問や意見が飛び交っていました。正式なディスカッションの授業はあまりなかったのですが、しばしば授業の中で様々な話題に話が発展し、学生同士や学生と先生の間で日々小さな議論が交わされていました。まさにグローバルな環境での学習は私にとって新鮮で刺激的なものでした。

・おわりに

今回の短期語学研修に参加して、長期留学への意欲がさらに高まったと感じます。実際に海外で過ごした 1 か月間はとても有意義な時間でした。貴重な体験をさせていただいたことに感謝しています。この短期研修で学んだことをこれからの学習に役立てていきたいです。



夏期短期研修を終えて

文教育学部人文科学科1年

瀬尾早紀子

私は7月末から9月初旬までの約5週間、University of California Extensionでの語学研修に参加しました。今回は語学研修ということで、英語に限っていえば受験勉強より長い時間勉強したような気がします。というのも当然のことながらステイ先でも、学校でも、クラスメイトとの挨拶や雑談でさえ英語でしなくてはならないという環境で、常に次に何と言うかを英語で考えていたからです。初めの方は返答に時間がかかったり、あまり家でも話すことが出来ないストレスや悔しさを感じましたが、中盤あたりからは英語でスムーズに考えられるようになり、ホストファミリーにも自分から話しかけることが多くなったことを実感しました。高校一年生のときニュージーランドで一週間ホームステイをしたことがありましたが、恥ずかしながらそれまで私の習っている英語は本当に使えるものではなく、「教科書上の英語」だと思いこんでいたので、その頃よりは自分で話す英語に自信を持てるようになったのではないかと思います。

また今回の研修で英語に対する興味を持つことが出来ました。アメリカはエンターテインメント大国ですが、そんなアメリカの、もしくは英語の映画や演劇、ミュージカルを字幕なしで楽しめたらと以前から憧れていました。そして新たにというか、より詳細な英語で出来るようになりたいと思うことが出来ました。それは英語で笑いを共有するということです。滞在中よくThe Big Bang Theoryというコメディ番組とThe Simpsonsを観ていたのですが、なんとなくストーリーは分かって、台詞の詳しい意味は分からないことの方が多く、ホストファミリーが笑っていて自分だけが分からない時の悔しさ、悲しさがとても堪えました。文化の違いということもあるかも知れませんが、私にとっては同じものを見ていて笑いを共有できないことほど悔しいものはありませんでした。週末の外出でずっと行きたかったハリウッドを訪ねた時、ガイドの方に、日本の吉本劇場のようなものではないか、ジョークハウスという漫談する劇場を紹介していただきました。笑いを共有することは言語の理解度のみならず、文化的背景も含めた知識がなければならないという難しさがあると思います。いつかそこでショーを観て笑いたい、そのために言語だけでなく文化など様々な面で理解を深めるという新たな目標を見つけました。

多文化共生という点でもアメリカはとても興味深いと思いました。ホストファザーはドイツ系アメリカ人でマザーはフィリピン人であり、他の参加者の中にはホストファミリーがメキシコ系やブルガリア人の人もいました。皆自分の意思でアメリカに来た訳だけでも、祖国は愛してるし、アメリカ国民としても、出身国民としても誇りを持っている。ロサンゼルスへ行くなら訪ねたいと思っていた日系人記念館Japanese American museumに行った際日系一世の方の大変貴重なお声を聞けたのですが、お子さんやお孫さんが日本語を喋れないことを残念がったり、日本人の勤勉さ、忍耐強さを強調されたり、とても日本人であることに誇りを持ってらっしゃると感じました。アメリカに来たのは経済的な理由や仕事の関係など様々だとは思いますが、中には祖国への思いなどないという人もいらっしゃるかと思います。そういった違いも含めて混ぜこぜで暮らしている様には圧倒されます。私自身はこうも人が入り乱れた場所では、「わたし/あなたはだれなのか」、「どこからきたのか」といったことがかえってとても重視されるように感じました。そういった場所では日本人であるということが私の行動全ての理由とされてしまう可能性があり、また自身にも日本＝常識・前提として比べる視点を常に持っていることに気がつきました。人種に関して無秩序に近いあの場所で、何も持っていない私たちは自身を証明するために日本人であるということに頼ってしまうのだなとショックを受けました。

なぜ英語を勉強するのかということはよく議論に挙がりますが、私は人と話すことが好きなのでそれ即ち話せる人が増える、分かるものが増えるということで楽しみが増えるようになると思っています。英語はコミュニケーションの道具であるというのもよく言われることですが、英語科の恩師がそんなのはナンセンスな物言いだと頻繁に言っていました。これを聞いていたときはあまり理解出来ませんでした。言葉ですから、「道具」なんてそんなオートマチックなものではない、ということなのではないかとやっと少し意味が分かったような気がします。

英語についてだけでなく様々なことに目を向け考えることが出来た、本当に密度の濃い5週間だったと思います。現地では治安について厳重に注意するよう言われていましたが、ホストファミリーやUCR職員の方々、グローバル教育センターその他の方々の協力で非常に安心かつリラックスして日々を送れました。今回この研修に参加する機会をいただけて本当によかったです。本当にありがとうございました。





2014 年度

**協定校等主催短期プログラム
報告書**

Inspire yourself, Change your future
Inspire yourself, Change your future
Inspire yourself, Change your future

お茶の水女子大学グローバル教育センター



2014 年度協定校等主催短期プログラム研修概要

研修機関

- 国立台湾大学（台湾）
- ボン大学（ドイツ）
- ルーヴァン・カトリック大学（ベルギー）
- ストラスブール大学（フランス）
- ダブリン大学（アイルランド）
- 梨花女子大学校（韓国）
- 淑明女子大学（韓国）
- 慶北大学（韓国）

研修参加者

表 1 研修先別人数（n=40）

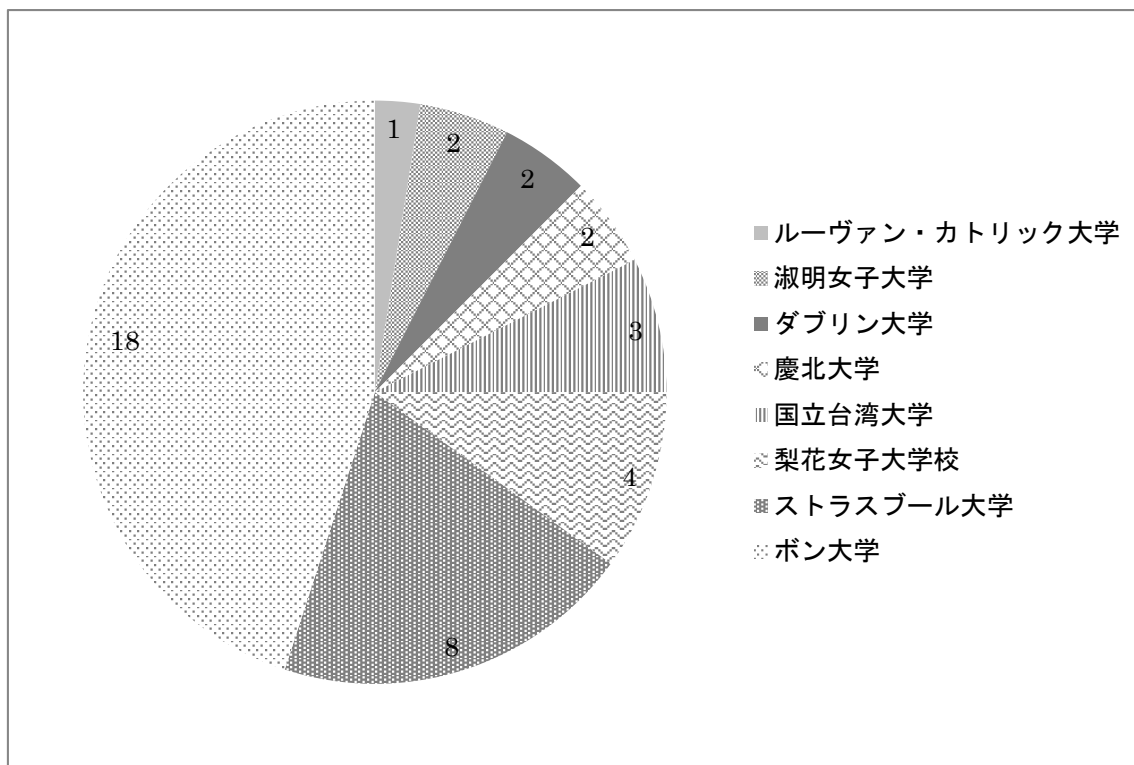


表 2 学部・専攻別 (n=40)

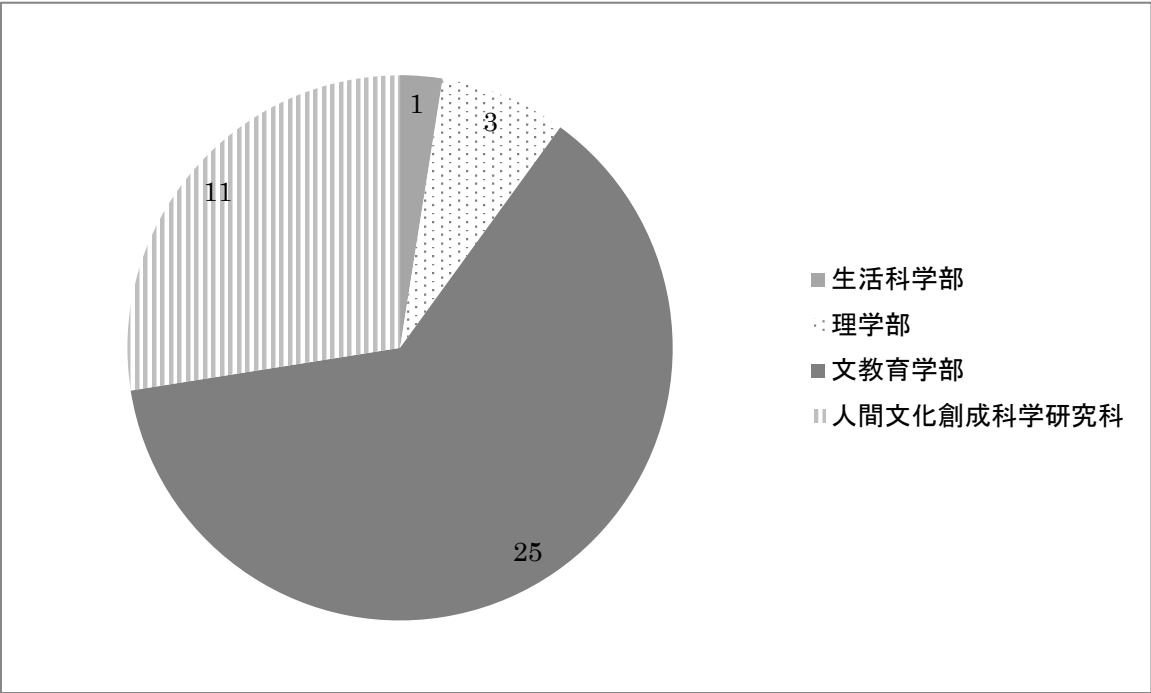
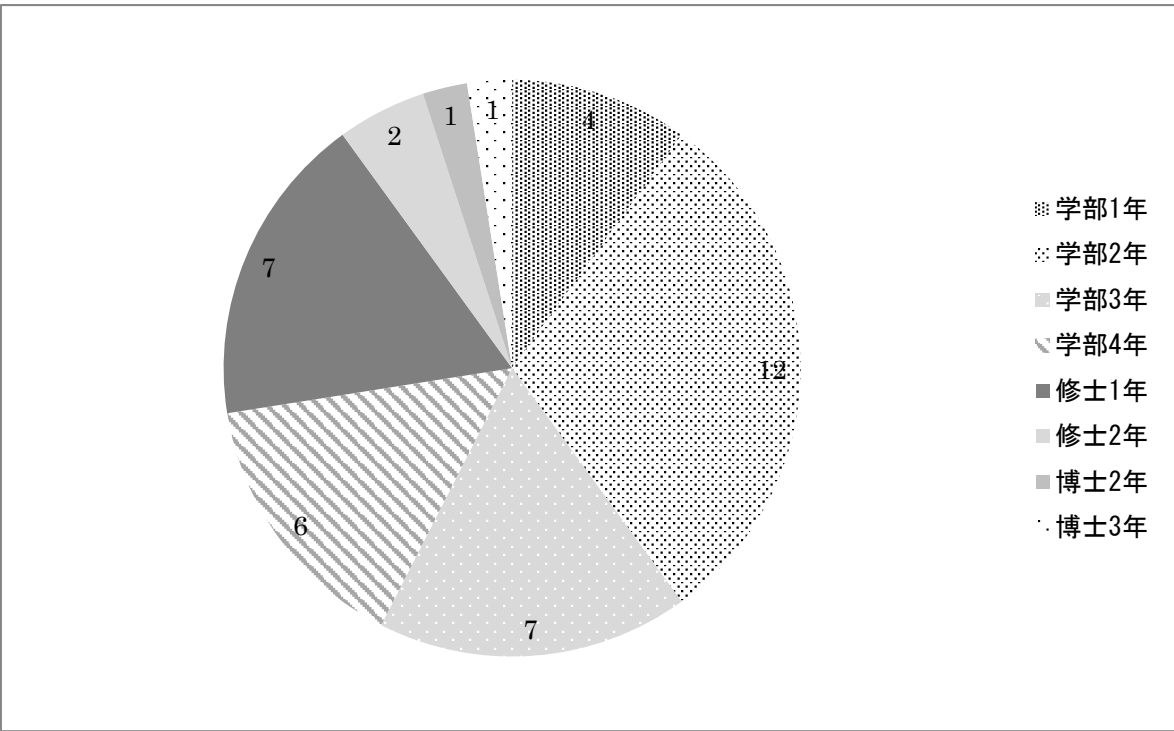


表 3 学年別 (n=40)



等主催短期プログラム研修所

- 3

University College Dublin Summer Programme に参加して

文教育学部人間社会科学科教育科学コース 2 年
平美貴子

○参加動機と参加までの道のり

私がサマープログラム参加を真剣に考え始めたのは、4 月末。在学中に一度は参加しようと考えていた短期語学研修の説明会に参加し、その予算や期間の長さが今の自分にはふさわしくないと感じたときに、ふとサマープログラム実施校のうち唯一英語圏にあった UCD のことを思い出した。もともと、アイリッシュダンスの舞台『リバーダンス』のサウンドトラックを聴きこんでいたこともあり、アイルランドは私にとってかなり魅力的な国だった。それに加えて、UCD のプログラムは 2 週間から参加が可能であり、幾分ハードルが低いように感じて参加を決めた。

ファーストコンタクトで、希望していた 8 月のコースは満席であることを知らされ、参加を諦めるのか、それとも空席がある 7 月のコースに参加するかの選択をしなければならなくなった。大学スタッフとの遅々として進まないメールのやり取りやお茶大の先生方・旅行会社・家族への相談を経て、7 月 14 日開始 2 週間のコースへの参加が確定したのは 6 月 11 日、日本を出発するちょうど一か月前のことだった。学期中、しかもテスト期間直前に参加するということ、そして何より出発まで 1 か月しかないという不安と焦りにさいなまれる私をよそに、ホームステイ先の情報が出発まで 1 週間をきっても届かないなど大学側はいたってルーズであった。結局、出発 3 日前に UCD へ電話し、無事ホームステイ先とホストファミリーの情報を得ることができた。しかし、この時電話でのコミュニケーションに予想以上の苦戦を強いられ、出発を目前に不安はむしろ増長したのであった。この短くも長い四苦八苦の前準備は、私のサマプロ体験の一部とも言えるほど私を鍛えてくれた。

○学生として

ホームステイ先に着いて何より驚いたのは、私と同時にロシアの学生がホームステイをするということであった。彼女は 26 歳で、既に教師として働いており、2 週間のバケーションの全てを UCD のプログラムに費やすという向学心にあふれた人だった。バス通学や大学での手続きには困難が伴ったが、そうした困難はすべて彼女と一緒に乗り越えていった。クラスも同じとなった彼女は心強い存在ではあったが、育った環境も歳も違う上に両者とも英語を十分に使いこなせないということで、あるいは学校の課題以上に彼女との意思疎通が 2 週間の中で最も大きな存在感を持った課題であった。

クラスは午前 9 時から始まり、それぞれ 110 分間の教科書中心（語彙、文法、表現など）の授業と日ごとに Speaking・Listening・Writing・Reading いずれかのスキルにフォーカスするスキルの授業で構成されていた。生徒としては、スペインからバケーションで来た

学校の先生 3 人に、ブラジルとイタリアから来た学生がそれぞれ 1 人ずつ、ホストシスターと私がいて、第 2 週目にはそこに上海で公務員をしている 4 人が加わった。半分以上が社会人で、出身国も年代も多様なクラスは実に刺激的だった。みなモチベーションが高く、発言が積極的なのは当たり前、更に英語の運用能力も高かった。

一番若く、そして一番英語習熟度も低いであろう私はクラスメイトと先生のテンポについていくのが精一杯で、日本の学校では出しゃばりでやってきた私がはじめて発言に躊躇することを覚えた。とはいえ、第一週はそのハイレベルな環境に充実感を抱いていた。第二週に入ると、その充実感はやもやとした頭の中の混沌へ消えていった。今まで身につけてきた英文法や語彙が溶けていくような感覚で、言葉をどう組み立てていけばよいのかわからなくなり、クラスでももっぱら焦りと自分のふがいなさばかりを感じていた。きっとこれは乗り越えるべき壁なのだろうと考えていたのだが、帰国の前に乗り越えられなかったことが、この旅一番の後悔である。

○観光客として

UCD のプログラムは、午後に観光地訪問などを備えていた。実際に私もその企画の中でいくつかの名所を訪れたのだが、この企画には、週 2 回で人数制限があり、しかも引率スタッフが必ずしも訪問地のことをよく知らないという欠点があった。ということで、ホストシスターと二人で、あるいは一人で、放課後は観光に乗り出した。日が長く気候も快適な夏のダブリンは環境的にも恵まれていたし、ダブリンの観光都市としてのあり方が観光の体験をより素敵なものにしてくれた。建造物は多くが古いものをリサイクルしたもので、新しい建物については外観や立地を工夫することで伝統的な景観が保たれていたのだ。

念願の『リバーダンス』鑑賞（しかもホーム・ダブリンで！）をはじめ、中世の古城や（ダブリンではないが）大西洋に面する断崖、博物館、アイルランドの歴史をひろく語る刑務所など、あらゆるところでいままで知り得なかった知識や味わったことがないような感動を得ることができた。日本における一般的なアイルランドの認知としては、ジャガイモ飢饉や紛争など暗いイメージのものが多く感じる。しかし、そうした暗い歴史も抱え語り継ぎつつ、壮大な自然にも、静かで美しい自然にも、ヒトの創造力や情熱にも触れられるアイルランドはなんとも素敵な国であるというのが今の私の印象である。

○最後に

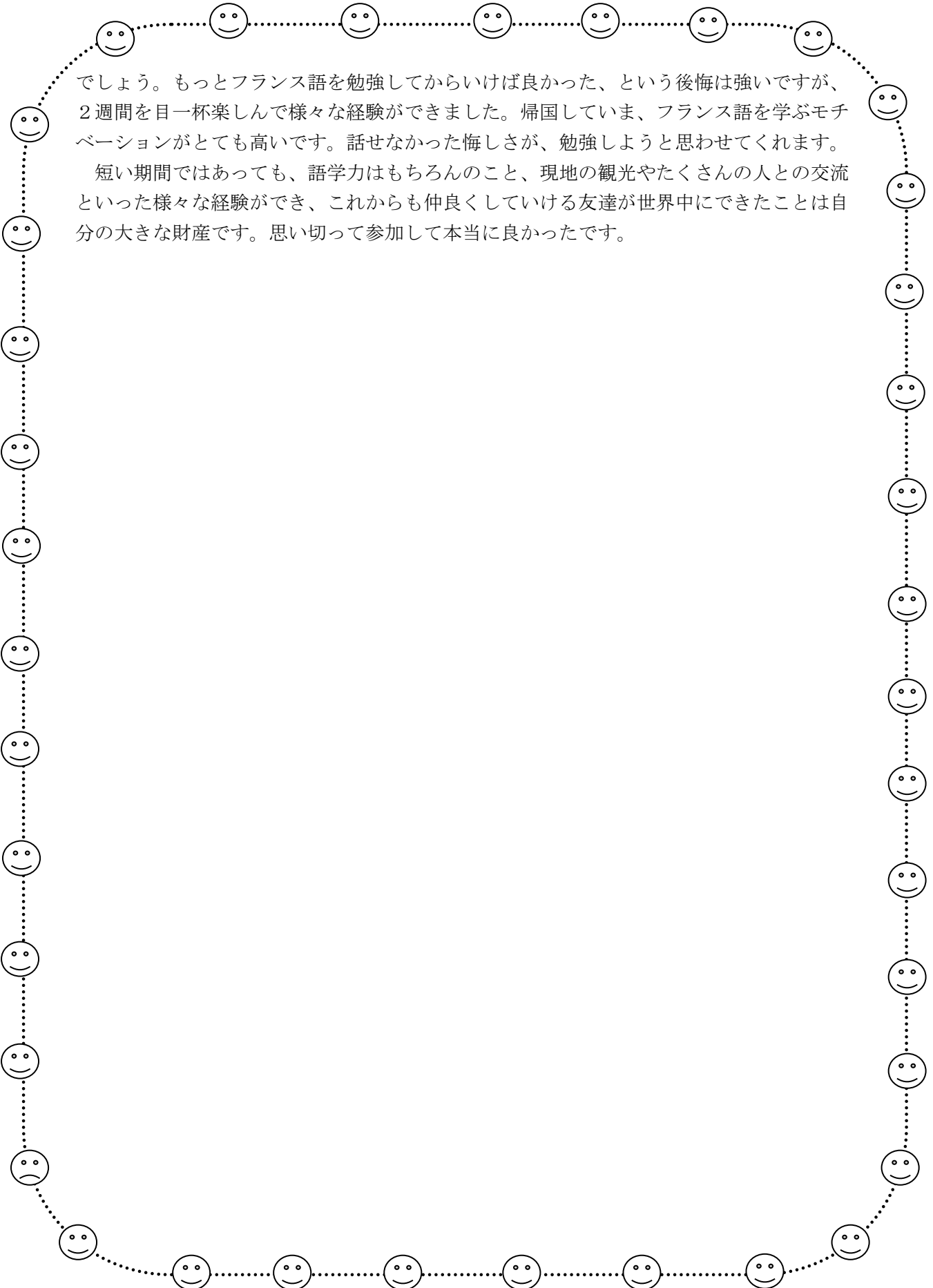
困った点もあったが大学のスタッフは親切で、特に学習面では本当に生徒一人ひとりをよく見てくださった。ホストファミリーも本当に素敵な人たちで、快適な環境で勉強に観光に食事に勤しませてもらえたことに感謝している。ホストシスターはじめクラスメイトとの出会いも大変貴重なものになった。周りのおとなの姿を見て、私は学習者としてまだまだヒヨッコだと感じたし、自分の将来により多くの選択肢を準備しようと思うようになった。20 歳を目前にして、良い転機と巡り合えた。ただ、2 週間は短かった！

ストラスブール大学サマープログラムを終えて

文教育学部人文科学科1年

児山 希

私は4月にフランス語の勉強を始めて、8月に留学したので4ヶ月分の勉強のフランス語で留学したことになります。私がこの大学への留学を決めたのは、将来働きたいと思っている途上国がフランス語圏に属することが多いため、英語に加えフランス語も勉強したいと思ったからです。今回はフランス語が少ししか分からない状態でプログラムがスタートしたので、初め授業では先生の言っていることは全く分からず、授業中に今は何をやる時間なのか、ということさえ分かりませんでした。クラスの中でも初め日本人以外の人とはあまり話せず不安でしたが、ウェルカムパーティーなどのアクティビティを通してたくさんの友達を作ることができました。同じ寮に滞在していた子とは一緒に帰ったり、共同キッチンで一緒にご飯を食べたりして二週間という短い間でもとても仲良くなることができました。語学力をあげるために一番大切なことは、その言語を使うことであり、その言語を話す友達と一緒にいることです。今回のプログラムで出会った人たちはみんなフレンドリーで、たくさんの人と仲良くなれたのでフランス語を話さなければならぬ環境に身を置くことができました。もちろん英語に助けられた部分は大いにあり、電子辞書は手放せませんでした。単語を並べるだけというようなフランス語だった参加する前に比べれば大きくレベルアップしたと感じています。私が今回のプログラムに参加して一番驚いたことは、フランス語は話せるが英語は話せない人が多かったことです。日本においては外国語と言えば第一に英語であり、それは学習していて当然と考えられていますが、他の国においては英語が第一外国語ではないこともあるのだと知りました。このプログラムにはウクライナやコロンビア、ルーマニア、ブラジル、中国、韓国といった様々な国からの留学生が参加しており、それぞれの文化の違いを感じることも多く、勉強になりました。各国の名物料理を友達と分け合ったり、各国で人気の音楽を流して歌ったり踊ったりしましたが、やはり日本の文化とは全く違いとても面白く話が尽きませんでした。今回は2週間と短い期間であったこともあり、フランス語は大幅に上達するというわけにはいきませんでした。もともとの知識量が少なかったせいもあります。もっと勉強してからくれば良かったと、もどかしい思いの連続でした。たどたどしいフランス語での話に根気よくつきあってくれた友達や、これ以上ないほど簡単なフランス語で授業をしてくれた先生（それでも友達にだいぶ助けられてやっとなついていました）、ホームパーティーなどに連れて行ってたくさんの新しい体験をさせてくれた友達など、本当にいい人たちに恵まれて2週間を楽しめたなと思っています。また、挑戦することや興味を広く持つことの大切さも感じました。友達の誘いを断っていたらパーティーでたくさんの人に出会い、フランス語以外の言語を教えてもらうことも、人生初のダンスクラブに行くこともなく、他の留学生に話しかけにいかねば2週間クラス以外でフランス語を話すことさえほとんどなかった



でしょう。もっとフランス語を勉強してからいけば良かった、という後悔は強いですが、2週間を目一杯楽しんで様々な経験ができました。帰国していま、フランス語を学ぶモチベーションがとても高いです。話せなかった悔しさが、勉強しようと思わせてくれます。

短い期間ではあっても、語学力はもちろんのこと、現地の観光やたくさんの人との交流といった様々な経験ができ、これからも仲良くしていける友達が世界中にできたことは自分の大きな財産です。思い切って参加して本当に良かったです。

ストラスブール大学サマープログラムを振り返って

文教育学部言語文化学科 仏語圏言語文化コース 2 年

竹内麻理子

私が今回ストラスブール大学の3週間のサマープログラムに参加した理由は、フランス語能力の向上が目的である。フランスの地を踏むのは今回が初であったが、高校2年生のときにフランス語の学習を始めて以来フランス語と日常的に接する環境に身を置いてみたいと常々考えていた私にとって、このサマープログラムへの参加を決めるのに迷いはなかった。プログラムに参加するにあたって、現地の大学側に申し込みをしたり、寮や飛行機の予約を取ったりと何かと個人で手配する事柄が多く、時に不安もあったがサマプロ担当の先生方や両親に相談することでなんとか乗り越えることができた。

サマープログラムの初日はまずクラス分けのテストから始まり、そこで参加者たちは3段階のクラスに振り分けられることとなった。私の所属したクラスではディスカッションをしたり、文法学習が中心であった。説明もすべてフランス語で行われる授業は新鮮に感じるとともに、「難しい」と感じることもしばしばであった。私のクラスにはウクライナ人、ロシア人、中国人、ギリシャ人などがいて、国籍も母語も実にさまざまであった。しかし、そんな仲間たちとも「フランス語」という一つの言語を介してコミュニケーションを取れたという経験は本当に貴重なもので、日本にいて学習するだけでは絶対体験できないことのひとつだと思う。授業の後にはいつも課題が出ており、授業中に当てられることもあるので寮に帰宅した後は毎日予習をしていた。中には、詩を書いてくるという課題もあり、日本語でもめったに詩を書くことなどないのにましてやフランス語で、など少々難易度の高いものもあった。授業中はとにかく、先生の指示を聞き洩らさないよう、クラスのみんなの、それぞれの色や個性を持ったフランス語が語る内容をとにかく理解しようと、全身を耳にするようなイメージで臨んだ3週間であった。終わってみると本当にあっという間の3週間で、しかしその間にストラスブール大学側が提供するアクティビティにもいくつか参加し、ストラスブール市庁舎でのレセプションや欧州評議会への訪問など単なる旅行では到底できないであろう体験もでき、とても満足している。また、授業が休みの週末には友達と電車でドイツの街まで行ったり、ストラスブール市内を観光するなど充実した週末を過ごすことができた。

私が今回のサマープログラムに参加して得たものは、大きく分けて2つある。ひとつは、帰国後もさらにフランス語をがんばろうという、フランス語学習のモチベーションが上がったこと。ふたつめは、3週間現地で「生活」することで、フランスというもう一つの世界に触れられたことである。海外で生活をしていると、時に自分の中での常識を超えるような瞬間に遭遇することもある。しっかり自分の頭で考えること、そんなことの大切さも実感した3週間であった。今回の経験を無駄にしないよう、今後もフランス語の勉強に励み、さらなる高みを目指して努力を続けたいと思う。



慶北大学サマープログラム

理学部 物理学科
日色史奈

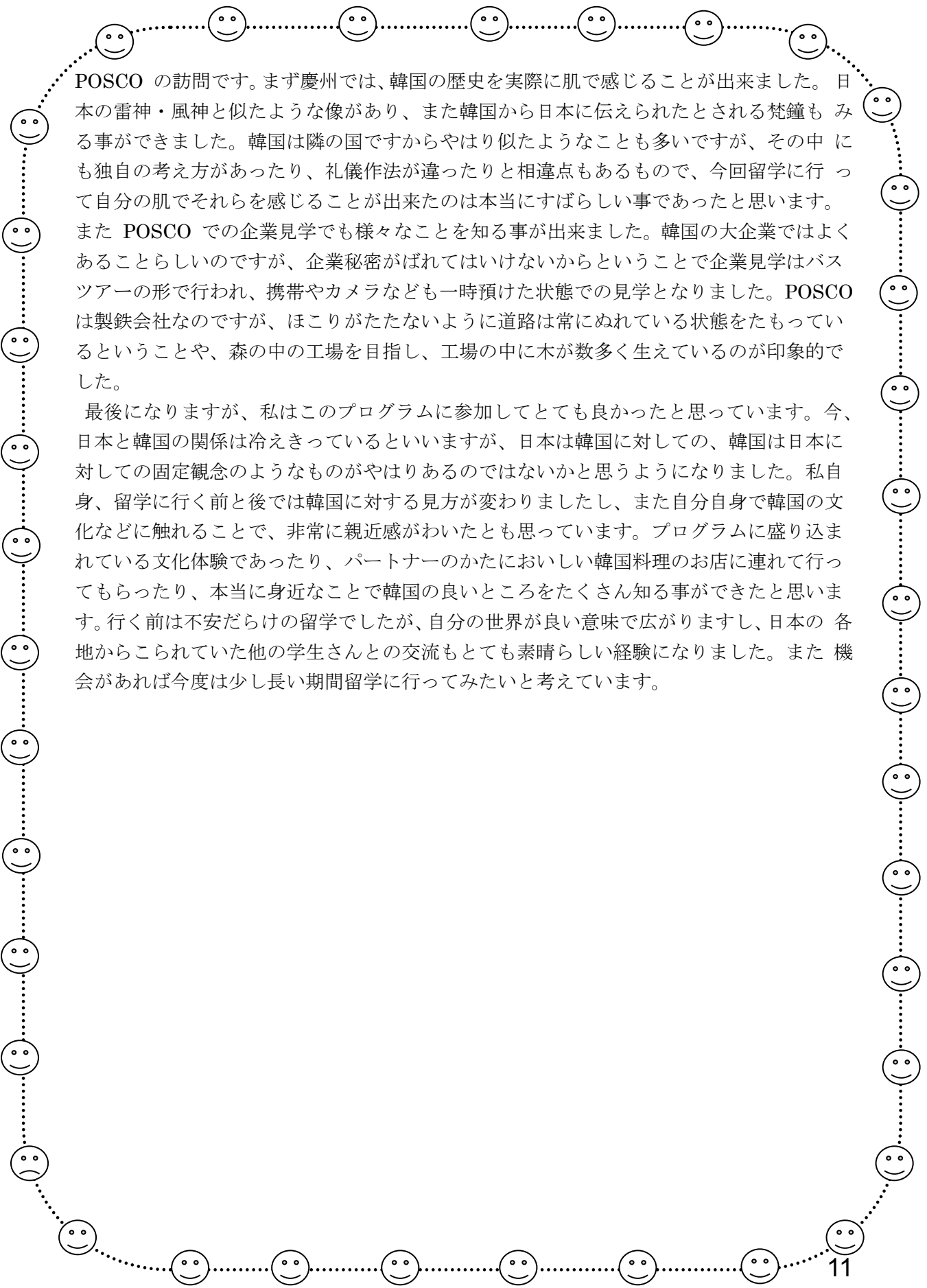
私は 8 月 11 日から 23 日の間、韓国の慶北大学に短期留学に行ってきました。このプログラムは、留学先の大学との連絡や飛行機の手配等の事前準備も自分でやらなければならないところがとても大変でした。大学に授業料を払うのも最初は間に合わず、結局担当の先生に協力してもらい入金の期限を伸ばしていただくことになったり、私の場合は海外に行く事事態初めてのことでパスポートを作らなければならなかったり、それらの連絡をほぼ自分で慶北大学の方にしなければいけないので大変でしたが、とても良い経験になりましたし、勉強にもなりました。

このプログラムは日本人向けのもので、韓国のパートナーの方も日本語が上手な方が多く、韓国語を勉強していない人でも気軽に参加出来るのが特徴だと思います。私も韓国語は全く勉強したことがなく、韓国に興味があったからという理由で参加しました。留学生の方にはもちろん韓国語を勉強している方や話すことが出来る方もいますが、私と同じように全く勉強した事が無い方もいて、韓国語の授業は2つに分かれてレベルにあわせて行うことが出来るようになっていました。

では早速留学で体験したことについて書いていきたいと思います。本格的に授業が始まったのは3日目の13日で、午前中は韓国の文化・歴史を学ぶ授業、午後は文化体験の一環として韓服体験を行いました。日本人向けのプログラムですから、授業は日本人の方が受け持ってくださいるか、韓国のパートナーさんが分からないところは訳してくださいるので特に不便はありませんでした。私は今まで詳しく韓国のことについて教わった経験がなく、韓国の地理や歴史、文化などについてのお話を聞くのも初めてのことで勉強になることばかりでした。また、お話を聞くだけでなく文化体験というかたちで実際に韓国の文化を体験できるのもこのプログラムの特徴であり、良いところだと思います。13日は韓服体験でしたが、伝統的な韓国の服を実際に着て、韓国の伝統的なお茶もいただくことができました。左の写真が韓服体験のときの写真です。とてもカラフルで綺麗で、良い思い出になりました。

14日からは韓国語の授業が始まりました。私は韓国語を勉強したことがなかったので、日本人の先生の授業でハングル文字の読み方から丁寧に教わることができましたが、韓国語を勉強したことのある生徒さんのクラスは、韓国人の先生の授業でした。そちらの授業では主に韓国語で授業が進められ、ネイティブの方の発音や言葉遣いなどを感じることが出来たようでした。韓国語の授業はほぼ毎日あるのですが、私は0からスタートして簡単な日常会話や自己紹介まではできるようになりました。今回の留学で更に韓国への関心は深まったので、また韓国語については深く勉強出来ればと思っています。

もう一つこのプログラムについて印象に残っていることは、歴史文化財慶州や大企業



POSCO の訪問です。まず慶州では、韓国の歴史を実際に肌で感じる事が出来ました。日本の雷神・風神と似たような像があり、また韓国から日本に伝えられたとされる梵鐘もみる事が出来ました。韓国は隣の国ですからやはり似たようなことも多いですが、その中にも独自の考え方があったり、礼儀作法が違ったりと相違点もあるもので、今回留学に行って自分の肌でそれらを感じる事が出来たのは本当に素晴らしい事であったと思います。また POSCO での企業見学でも様々なことを知る事が出来ました。韓国の大企業ではよくあることらしいのですが、企業秘密がばれてはいけなからということで企業見学はバスツアーの形で行われ、携帯やカメラなども一時預けた状態での見学となりました。POSCO は製鉄会社なのですが、ほこりがたたないように道路は常にぬれている状態をたもっているということや、森の中の工場を目指し、工場の中に木が数多く生えているのが印象的でした。

最後になりますが、私はこのプログラムに参加してとても良かったと思っています。今、日本と韓国の関係は冷えきっているといいますが、日本は韓国に対しての、韓国は日本に対しての固定観念のようなものがやはりあるのではないかと思うようになりました。私自身、留学に行く前と後では韓国に対する見方が変わりましたし、また自分自身で韓国の文化などに触れることで、非常に親近感がわいたとも思っています。プログラムに盛り込まれている文化体験であったり、パートナーのかたに美味しい韓国料理のお店に連れて行ってもらったり、本当に身近なことで韓国の良いところをたくさん知る事ができたと思います。行く前は不安だらけの留学でしたが、自分の世界が良い意味で広がりますし、日本の各地からこられていた他の学生さんとの交流もとても素晴らしい経験になりました。また機会があれば今度は少し長い期間留学に行ってみたいと考えています。

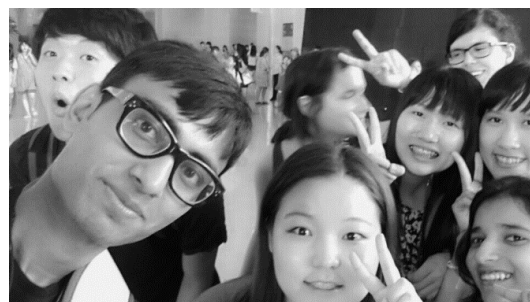
「テコンドーをしてみたい」という単純な理由でこのサマースクールに参加しました。2013 年の夏に別の大学のプログラムに参加したのが初めての渡韓で、今回が二度目でした。韓国に関心を持ち日々理解をしようと努めていますが、韓国武道に触れたことはなかったのでこの機会に参加を決めました。

セッション 2 の期間は約 3 週間。参加者は 50 人弱で、中国、日本、カナダ、ベトナム、スイス、インドなど様々な国から集まっていました。午前中 3 時間は韓国語の授業で、1 時間の休憩をはさみ午後 3 時間はテコンドーを習いました。韓国語のクラスは二つのレベルに分かれており、私は上のクラスに入りました。ここでは日本の学生以外はほとんど皆自国で韓国語を専攻していて、クラスの共通言語は英語ではなく韓国語でした。優しい先生とクラスメイトの配慮のおかげもあり、一年独学で勉強しただけの私の拙い韓国語でもなんとかコミュニケーションがとれ、楽しんで授業に参加することができました。午後のテコンドーの授業では、ユニークな師範 2 人が冗談を交えながらも真剣にテコンドーを教えてくださいました。運動神経がない私でも最終試験に無事合格できたので、韓国語の授業同様、やる気と気合いさえあればなんとかなるものです。授業後や週末にも、韓国放送局での音楽番組の観覧、38 度線訪問、韓国料理体験など、多様なプログラムが用意されています。韓国人学生のサポートも充実しているため、毎日安心して韓国の生活を楽しむことができました。

このサマースクール中に感動した出来事があったのでひとつ紹介します。プログラムの最終週にテコンドーの先生の道場に招待され、何人かで遊びに行きました。道場には小学校低学年から中学生までの子ども達がたくさんいて、外国人である私たちを温かく迎えてくれたのですが、私は複雑な心境でした。道場に行く 2 週間ほど前、独立記念館という日本からの独立の歴史を記録した場所に訪れました。そこには夏休みということもあってか親子連れがほとんどで、親が小学生くらいの子どもに展示を説明する姿が随所に見られました。韓国史にとって欠かせないとても大切な歴史であり、小さい頃から教わるのも当然だと今振り返ると思えるのですが、その姿を見た時はやはりショックでした。道場でも、こういった教育を受けているであろう子どもたちと、日の丸の入った道着で触れ合うことが不安でした。幼い時に国と人とは別にして考えることは難しいのではと思ったし、おそらく生で初めて見る日本人だろうから、「変な印象を残しちゃいけない」とやけに緊張していました。そんな私を救ってくれたのが道場の子どもでした。「私は日本が好きだし、いい国だと思ってる。いつか日本に行きたい。」と急に言われた時は驚きましたが、韓国語能力が乏しい私に一生懸命伝えてくれて、「私の不安な気持ちを察してくれたのかな？」と泣きそうになりました。一緒にテコンドーをし、写真を撮ったり話をしたりして、最後の別れ際には涙を流してくれる心優しい子ども達でした。おそらく、先生は道場の子ども達に

外国人と直接触れ合う機会を与えなかったのだと思います。小さい頃に違う国の人と接することはすごく重要で、そこから学ぶことはたくさんあると思うのですが、なんだか私のほうが学ばせてもらった気がします。

このサマースクールは学生間だけではなく先生との距離も近く、特にテコンドーの師範達とは一緒に食事もしました。違う世代の韓国の人と密に接するのは初めてだったので、新しい発見もたくさんありました。語学に関しても、毎日3時間の授業を3週間受け、授業外でもクラスメイトと韓国語でコミュニケーションをとっていたので、カタコトながらも会話能力が伸びました。韓国に興味のある外国人と話すのも日本にいるとなかなかない機会なので非常に新鮮でした。私は日韓関係や朝鮮半島関連の問題に関心を持っていて、読む文献もその関連のものが多くのですが、今回改めて、直接自分で経験することの重要性を感じました。机上の勉強ももちろん必要不可欠ではありますが、それよりもっと大切なのは、現地を訪れ、その土地の人と交流し、その土地のものを食べて文化に触れ、そうやって自分の五感を使うことだと思います。このサマースクール後も1か月ほど韓国に滞在し、また秋と冬、そして春に一度ずつソウルに足を運びました。日本でも勉強会を開いて韓国史を勉強しているのですが、知れば知るほど、韓国という国への興味が膨らんでいきます。日韓関係悪化が叫ばれる昨今ですが、そんなご時世だからこそ、隣国に対してもっと理解を深める必要があると痛感しています。今後は私自身、何らかの形で日韓関係や東アジアの平和に貢献できたらと思っています。



2014年度夏季海外短期研修・協定校等主催短期プログラム報告書

発行日 2015年3月28日

発行 お茶の水女子大学グローバル教育センター
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
Tel: 03-5978-5913

編集 酒井彩・渡辺紀子（グローバル人材育成推進センター）

印刷・製本 よしみ工産株式会社